

平成 23 年度

大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業 報告書

笑顔をつなげよう

～現在から未来へ、布沢から福島へ～



2012 年 3 月

宇都宮大学 農学部

農業経済学科 守友裕一ゼミ

駒形英 戸倉毅 土橋龍 難波茉佑
畠山恵実 藤沼航平 茂木美江
稲葉憲作 岩瀬涼 倉科芙美 小林雅人
南波美帆 長谷川安代 ググンハス

◎目次

1. はじめに

2. 布沢区の概要

3. 昨年までの活動

4. 調査日程

5. アンケート

5-1. アンケート調査の目的

5-2. アンケート概要

5-3. アンケート結果

5-4. アンケート考察

6. 戸別調査

6-1. 戸別調査の目的

6-2. 戸別調査の概要

6-3. 戸別調査の様子

6-4. 戸別調査結果

6-5. 戸別調査考察

7. 布沢での中間発表会

7-1. 中間発表会の様子

7-2. KJ法による意見交換

7-3. 中間報告会の考察

8. 震災による影響

8-1. 森林の分校の利用客数

8-2. 震災についての考察

9. その他の活動

9-1. 道普請

9-2. 恵みの森

9-3. 森のふれあいコンサート

9-4-(1). 福島県知事表敬訪問

4-(2). 集落活性化県民討論会

9-5-(1). 只見の雪まつり

5-(2). 只見町町長との会談

5-(3). 冬の布沢について

10. 提案

11. 今後の取り組み

補論. ゆっこぎについて

後記 守友裕一

参考資料

①布沢区の活性化アンケート調査の実施について

②布沢区活性化アンケート

③布沢区戸別調査アンケート

④布沢区通信

1. はじめに

私達宇都宮大学農学部農業経済学科守友ゼミ3年は、守友裕一教授と学生7名によって構成されている。本ゼミは地域活性化についての方策と現状を知り、考えることを目的としている。本ゼミでは、2010年度から中山間地域活性化事業として、福島県南会津郡只見町布沢区に入り調査を行ってきた。昨年度の調査を引き継ぎ、今年度は実際に布沢での調査活動を9月に行った。11月の現地での中間報告、2月の福島市での全県的な報告、さらに2月の雪暮らし体験を経て現在、この事業のまとめとして最終報告書を作成した。

まず布沢での活動を通して、現在の中山間地域が抱える問題を理解することにより、これから布沢がどのように活性化していくかを考える。また、去年の震災や水害により、どのような被害を受けたのかを調査し影響を考える。

学生という視点から布沢を見て考え、正直な意見・感想をまとめ地域の方々に参考にして頂く。

この報告書が地域の方々をはじめとする布沢区に関わる方、また区外の活性化事業に関わるの方々にとって、活性化への一歩に繋がってもらえれば私達にとってこれ程嬉しいことはないと考えている。

宇都宮大学農業経済学科3年 守友ゼミ

藤沼航平 畠山恵実 駒形英 戸倉毅

土橋龍 難波茉佑 茂木美江

4年 稲葉憲作 岩瀬涼 小林雅人

調査協力者 4年 倉科英美 南波美帆

大学院 ググンハス 長谷川安代

宇都宮大学農業経済学科教授 守友裕一

2. 布沢区の概要

地理

福島県西部、只見町の東部に位置する中山間地である。近隣地域は北に松坂峠を通じて金山町、東に吉尾峠旧道を通じて昭和村がある。豪雪地帯でもあり、冬季は松坂峠が閉鎖される。



人口構成

・世帯数：57 世帯（平成 24 年 1 月 26 日）

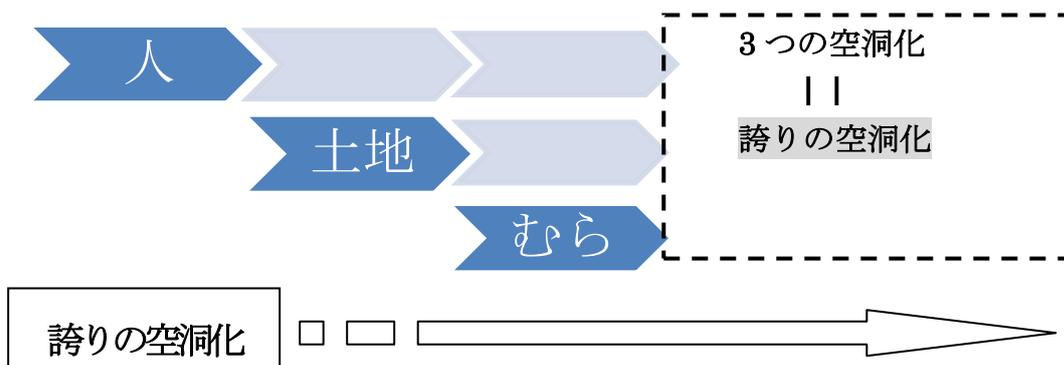
・総人口：153 人（平成 24 年 1 月 26 日）

男性 73 人、女性 80 人

（うち 3 世帯 3 人が冬期間首都圏の子供の所に身を寄せている）

昨年度事業時は高齢化率 **46.2%** であったが、今年度は **48.9%** と上昇し、より少子高齢化集落の進行となった。約半数近くが 65 歳以上を占める。

今後少子高齢化が進むとともに、風評被害の影響から布沢区に流入する人口減少に拍車を掛けるとみられる。



小田切徳美編著『農山村再生の実践』（農文協 2011）

地域の空洞化は、人、土地、むら、そして誇りの空洞化へ進むとされている。布沢区の場合、現在集落機能が維持されているが、少子高齢化による人口減少、空き家や耕作放棄地の増加が進むことで、「むら」の空洞化（集落消滅）が予測される。

現状(問題点)

- ・ 空き家の増加
- ・ 少子高齢化
- ・ 農業後継者の不足
- ・ 冬季のどん詰まり化(松坂峠の冬季封鎖)
- ・ 風評被害による分校の利用客の減少
- ・ 交通の便

昨年度の事業に続き、以上の 6 点が問題点として挙げられる。

上記の 3 点は多くの中山間地域が抱えている共通問題であり、下記の 3 点に関しては布沢区において特有な問題点である。この項目については後述する。

▽布沢区の図

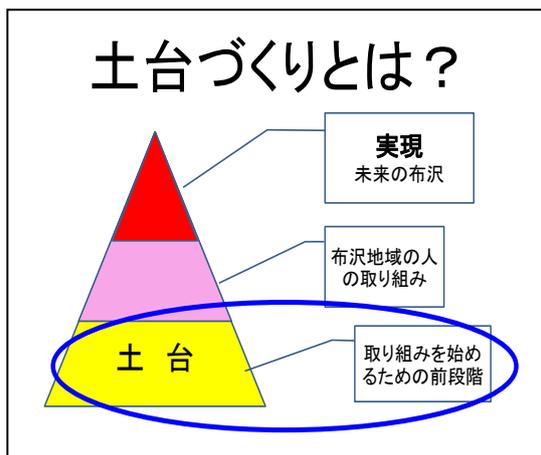


只見町 HP より <http://www.tadami.gr.jp/kankou/morinobunkou.htm>

3.昨年度までの活動

私達は昨年度（2010年度）守友教授の掛け声の下、プレゼミの形式で2010年5月から活動を始め、実際に布沢での活動を9月（集落点検ワークショップ）と10月（集落内団体の聞き取り調査とKJ法）の2回行った。11月の会津若松市での中間報告会、2月の雪の暮らし体験を経て2年目である今年度の継続調査に至った。昨年度の活動目的は、先ず布沢での活動を通じ現在の中山間地域が抱える問題点、地域に残る資源、地域の人が考える理想と可能性、そしてこれからどのようにして布沢を活性化してゆくかの提案をすることを中心に活動を行った。現状の把握を通じて今後どのような活動をしてゆくべきかの方針を考え今後の地域活性化のための土台作りを最終的な目的とし次の三角形のピラミッドを作った。

土台づくりとは？



住民の希望→実現（未来の布沢）へ

つまり、ピラミッドの図でいう頂点の赤色の三角形の部分に布沢地区を到達させることが重要である。そのためには次の式が成り立つ。

実現＝土台＋布沢地区の人々の取組。

つまり実現には、前段階である黄色の台形の土台や実現に不可欠なピンク色の取り組みが前提になければいけない。ここで1番重要なのは基礎となる土台作りであると考えた。

そこで昨年度の活動では、この土台作りをメインに取り組んだ。

布沢地区での土台作りとは？

- ①道路開通：松坂峠の通年通行（只見～会津若松を直通に）
 - ②情報の共有化（集落内・外との情報発信&交流の活発化）
 - ③今あるものの維持（普請や祭りなど地域行事）
 - ④外部の人の受入れの検討（どのような外部との交流があるか、出来そうかといった検討）
- 上記の①～④が土台の基本として確立した。

↓以下は①～④が土台として確立した背景についての説明である。

昨年度私達は、ワークショップやKJ法での調査を通して次の4つの土台が必要であると考えた。1つ目は、近隣の市町村との交通網を通年で確立することだ。これは、現在金山

町と布沢を結ぶ松坂峠が冬季期間は通行止めになっているため、松坂峠の年中開通を目標とするものである。只見町から会津若松市に抜けるには金山町を通るこのルートが最も近く、交通を考える点でとても重要である。唯一の鉄道である JR 只見線も冬季期間は運転見合わせが多く、また 2011 年新潟・福島豪雨の影響で、現在も会津川口～大白川駅間の運転見合わせが続きバスでの代行輸送は行っているものの只見町の人の足ともいえる交通不便が解消されることはとても難しい状況だ。←①道路開通次にあげられることは、②情報の共有化である。情報の共有化とは、地元になんかあって何がないのか。また、都市との情報の共有化など様々なものが考えられる。情報が共有化されることで、集落の人全員で一致団結して取り組むことができ大きな発展につながることを期待できる。

3 番目としては、集落を維持していくために、新たなことに挑戦することも大切だが、その前に③今あるものを維持することである。今あるもの、つまり普請や祭りなどが行われなくなってしまうと、集落としての機能の低下やコミュニティの閉塞につながってしまう。この今あるものを維持していくために、高齢者から若者へとといった継承が必要である。また、今の祭りや会合があることで、住民には大きな力となるので、住民が、集落が少しでも住みやすい、未来を考えることができると思えるように、現在地域にあるものの維持をする必要がある。

最後に④外部の人の受け入れの検討があげられる。中山間地域では、高齢化率 50%以上の限界集落化が進み若者が少ないのが現状だ。そのためグローバル化社会であっても、インターネットやパソコンといった IT 機器を操作できる人の割合が非常に少ない。そこで、外部の若い人を受入れることで、遠く離れた首都圏との情報交換などが可能となる。つまり、I ターンや U ターン者が布沢で生活しやすい援助やサポートをすることが外部の人を受入れるための土台となる。

以上のように昨年度は地域内資源や今ある問題点の発掘を中心に活動してきた。その結果見えてきた布沢発展への道の基礎は「土台づくり」である。この土台が昨年度は地域を私たちが直接見て聞いたり感じたりしたものが中心であった。しかし、今以上に具体性を増し、現在行われている取り組みを理解することが土台づくりやその 1 つ上の取り組みには必要不可欠だ。そのため、今年度は実際に地元行事に参加させていただいたり、現地での詳細なアンケート調査や戸別聞き取り調査を行ったりすることで、昨年度に比べより具体的な部分にまで関わっていくことにした。この部分に関しては、後章で詳しく記していきたい。

昨年度の活動の様子



9月の集落点検ワークショップの様子



10月のKJ法
(左は男性チーム、
下は女性チーム)



恵みの森散策



4. 今年度（2011年度）の調査日程

	午前	午後	夜
2011年 9月16日	移動（宇都宮→只見）	地区概況説明 周辺見学	区長様はじめ地区の方々へ ご挨拶
9月17日	アンケート調査表の回収 と戸別聞き取り調査	アンケート調査表の回収 と戸別聞き取り調査	区長はじめ地区の方々 と「森林の分校ふざわ」の校 庭でバーベキューにて交流 会
9月18日	布沢の道普請の手伝い	移動（只見→宇都宮）	
11月11日	移動（宇都宮→只見）	中間報告会の準備	
11月12日	中間報告会 アンケート調査班	中間報告会 戸別調査班	中間報告会に来られなかつ た方々に再度報告・交流会
11月13日	恵みの森散策	森林のふれあいコンサ ート	移動（只見→宇都宮）
2012年 2月3日	福島県知事表敬訪問(於：福島県庁)		
2月4日	集落活性化県民討論会 ～大学生の力が地域を変える！～ 中間報告発表（於：杉妻会館）		
2月11日	移動（宇都宮→只見）	只見雪まつりと 只見町長との懇談	只見雪まつり
2月12日	雪遊び体験、資源体験(温 泉)	移動(只見→宇都宮)	

5. 布沢区の活性化に関するアンケート調査について

5-1. アンケート調査の目的

- ・住民が布沢に対してどんなところに誇りを持ち、不便さを感じているのか、これからの集落をどう考えるかなどの認識の共通点、違いを調べる。
- ・昨年度の取り組みで出てきた活性化のアイデアに関して、住民全体の関心はあるのか、実際に実現できる資源はあるかを調べる。

5-2. アンケート調査概要

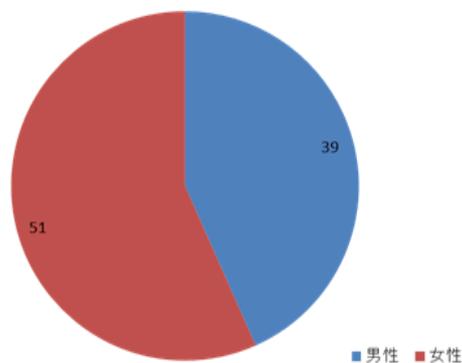
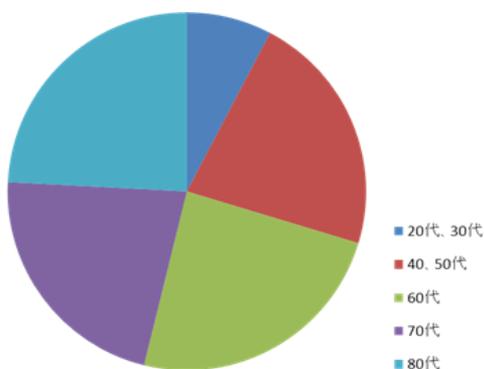
全世帯 108 人に配布うち 92 人から回答

(回収率 85%) 非常に多くの区民の方々から回答をいただいた。

5-3. アンケート調査結果

問1 あなたの年齢をお尋ねします。

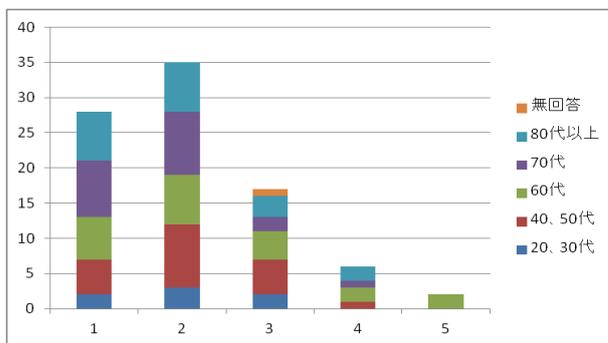
問2 あなたの性別を教えてください。



20代、30代	7人
40代、50代	20人
60代	22人
70代	20人
80代	22人

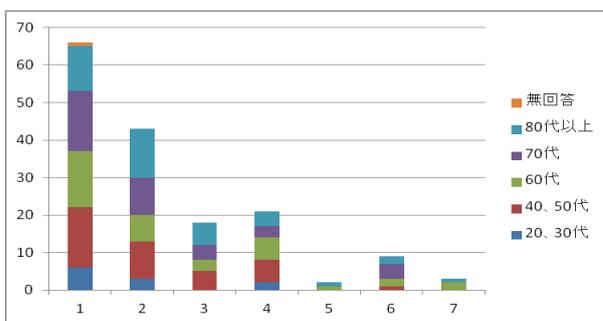
男性	39人
女性	51人

問3 あなたは布沢区に愛着や誇りを感じますか？



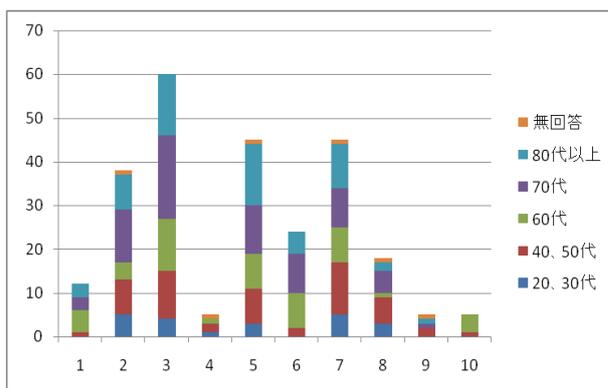
- 1. 大変感じている 28人
- 2. 少し感じている 35人
- 3. どちらともいえない 17人
- 4. あまり感じていない 6人
- 5. 全く感じていない 2人

問4 布沢区で誇りに思っているところはどこですか？（複数回答）



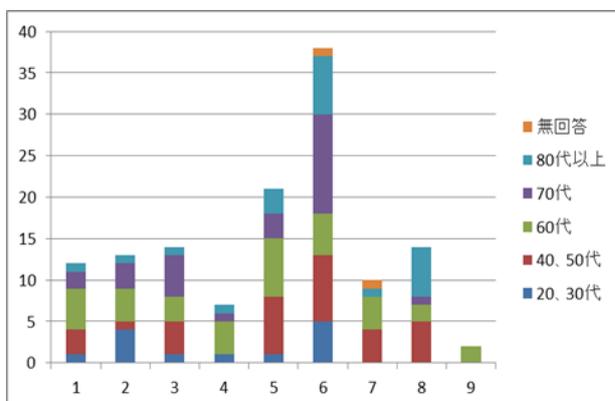
- 1. 自然が豊かである 66人
- 2. 近所付き合いや人間関係が良い 43人
- 3. 暮らしやすい 18人
- 4. 食が豊かである 21人
- 5. 観光客が多い 2人
- 6. 地域の伝統行事やお祭り 9人
- 7. その他 3人

問5 現在の布沢区で住みにくいと感ずるところは何ですか？（複数回答）



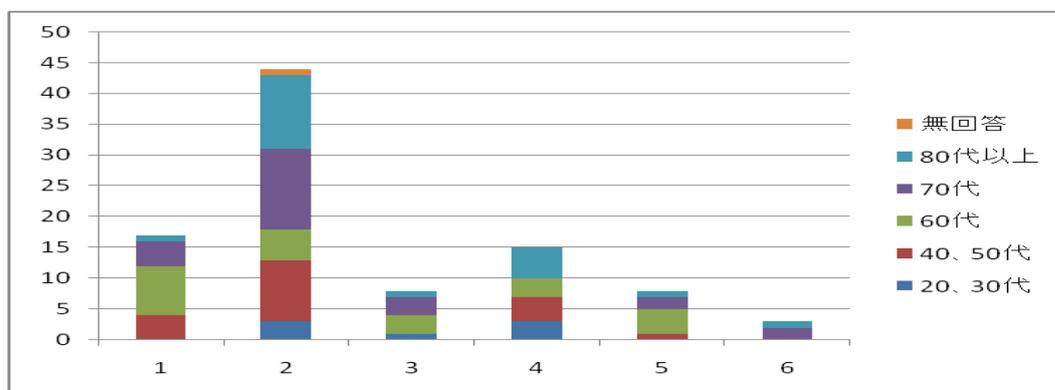
- 1. 特にない 12人
- 2. 買い物などの日常生活が不便 38人
- 3. 若い人が少ない 60人
- 4. 近所付き合いなどに気苦労する 5人
- 5. 交通の便が悪い 45人
- 6. 耕作放棄地の増加 24人
- 7. 医療機関から遠い 45人
- 8. 通学が不便 18人
- 9. 通信手段（携帯など）の不備 5人
- 10. その他 5人

問6 あなたが考える布沢の活性化とは何ですか？（複数回答）



- | | |
|------------------|-----|
| 1. 観光客が増加する | 12人 |
| 2. 移住促進 | 13人 |
| 3. 地域内のイベントの充実 | 14人 |
| 4. 外部との交流イベントの充実 | 7人 |
| 5. 特産品を作る | 21人 |
| 6. 道路の不便さを解消する | 38人 |
| 7. 活性化の必要はない | 10人 |
| 8. 分からない | 14人 |
| 9. その他 | 2人 |

問7 昨年、宇都宮大学の学生が布沢区を訪れ、集落点検やワークショップ（共同の計画づくり）を行ったことを知っていますか？

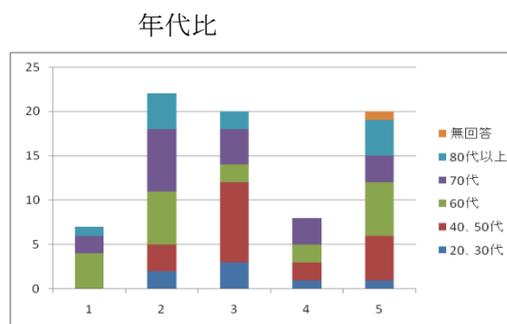
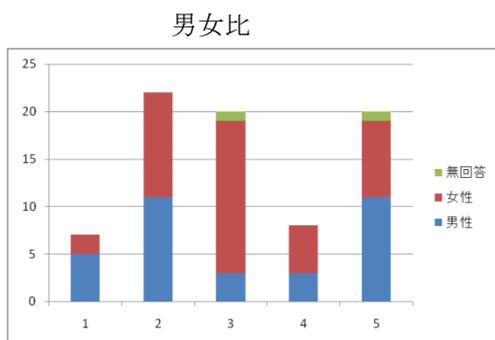


- | | |
|---------------------------|-----|
| 1.活動に参加した | 17人 |
| 2.参加はしなかったが知っている | 44人 |
| 3.参加はしなかったが、次回時間があれば参加したい | 8人 |
| 4.知らない | 15人 |
| 5.興味がない、参加したくない | 8人 |
| 6.参加したいかどうか具体的に分からない | 3人 |

問8 布沢区を活性化させるために、以下の案があります。あなたがやってみたいこと、興味のあることとその程度を教えてください。(この案は昨年、布沢区の方々と学生とで考えたものです。)

問8[〃] 問8で興味がある、少し興味があるとお答えした方にお尋ねします。あなたが何か協力できること、やってみたいことはありますか？

8-1 農業体験活動

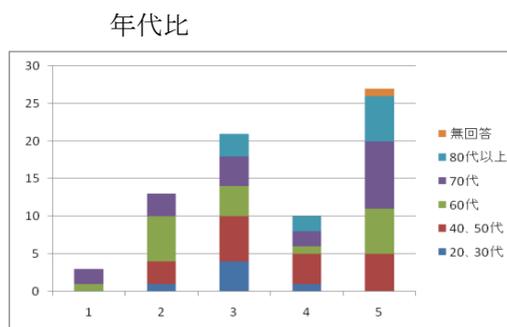
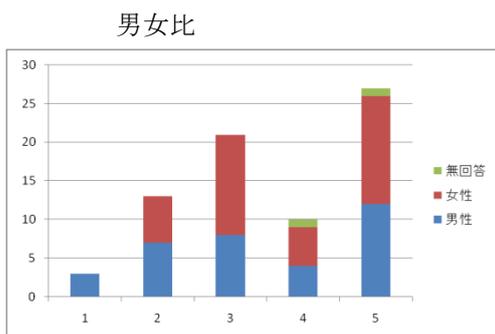


- 1.興味がある 7人 2.少し興味がある 22人 3.どちらともいえない 20人
4.あまり興味がない 8人 5.興味がない 20人

8-1[〃]

1. 指導できる 3人 2. 農地の場所を提供できる 15人
3. 参加したい 11人 4. その他 0人

8-2 民泊



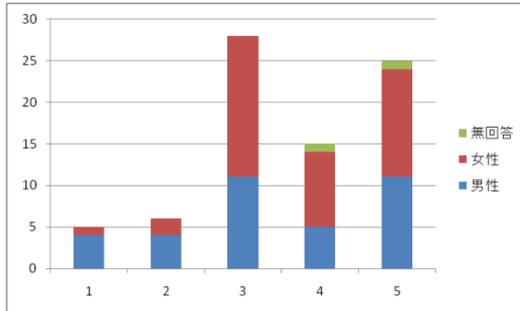
- 1.興味がある 3人 2.少し興味がある 13人 3.どちらともいえない 21人
4.あまり興味がない 10人 5.興味がない 27人

8-2[〃]

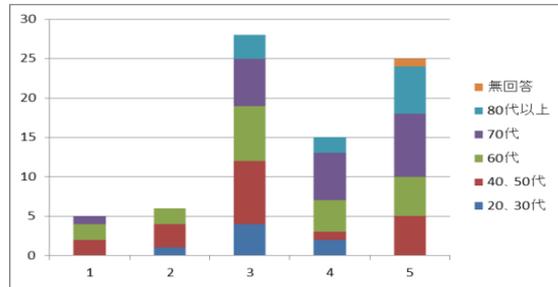
1. 空き家を提供できる 0人 2. 自分の家に泊めて交流したい 6人
3. その他 2人

8-3 農村レストラン

男女比



年代比



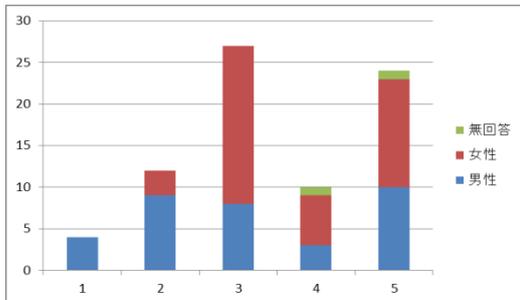
- 1.興味がある 5人 2.少し興味がある 6人 3.どちらともいえない 28人
4.あまり興味がない 15人 5.興味がない 25人

8-3`

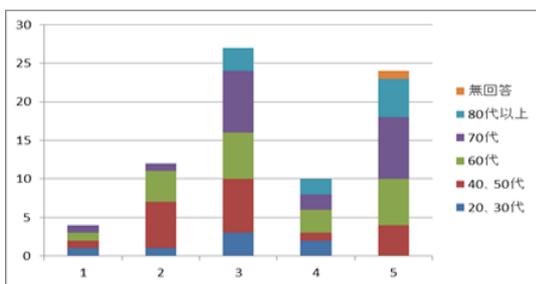
1. レストランを運営したい 0人 2. スタッフとして料理などを作りたい 2人
3. 場所を提供できる 1人 4. 材料を提供できる 5人
5. その他 0人

8-4 森林の居酒屋（分校などを利用して住民の憩いの場を作る。）

男女比



年代比



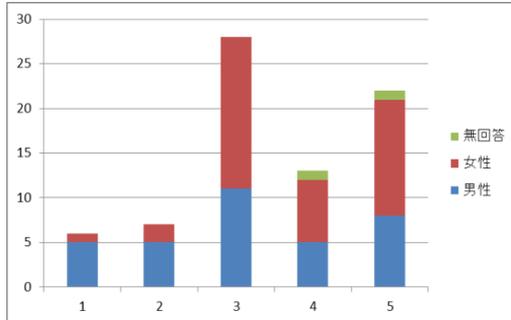
- 1.興味がある 4人 2.少し興味がある 12人 3.どちらともいえない 27人
4.あまり興味がない 10人 5.興味がない 24人

8-4`

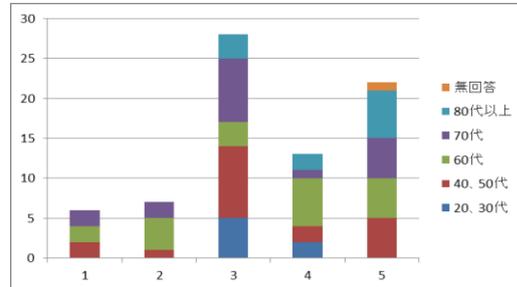
1. 居酒屋を運営したい 1人 2. スタッフとして料理などを作りたい 1人
3. 場所を提供できる 0人 4. 材料を提供できる 0人
5. 利用したい 14人 6. その他 0人

8-5 猫淵清水を使って水ビジネス (豊かな水資源の有効活用、地ビールなど)

男女比



年代比



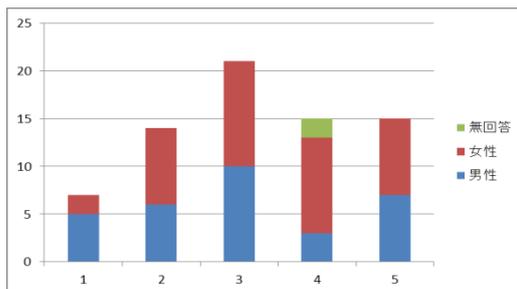
1. 興味がある 6人 2. 少し興味がある 7人 3. どちらともいえない 28人
 4. あまり興味がない 13人 5. 興味がない 22人

8-5'

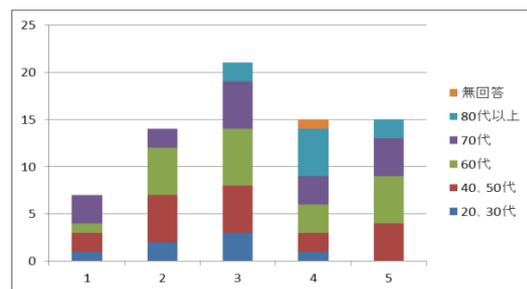
1. 運営したい 2人 2. 販路を開拓できる 2人
 3. 商品を開発できる 2人 4. その他 2人

8-6 森林療法ツアー (恵みの森など)

男女比



年代比

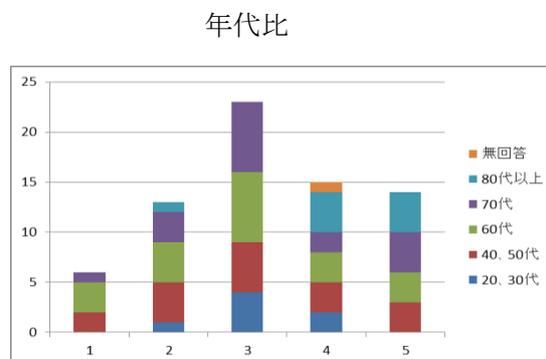
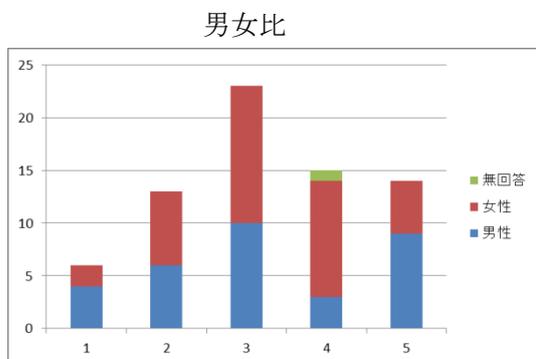


1. 興味がある 7人 2. 少し興味がある 14人 3. どちらともいえない 21人
 4. あまり興味がない 15人 5. 興味がない 15人

8-6'

1. 案内、指導できる 3人 2. 参加したい 14人
 3. その他 0人

8-7 農産物直売所の開設、販路開拓

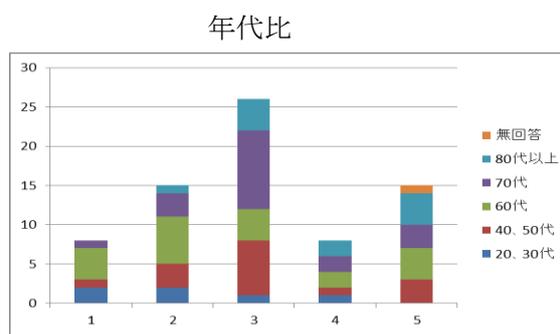
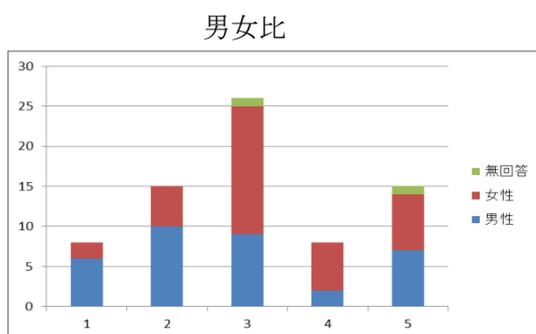


- 1.興味がある 6人 2.少し興味がある 13人 3.どちらともいえない 23人
 4.あまり興味がない 15人 5.興味がない 14人

8-7'

1. 農産物を提供できる 3人 2. 場所を提供できる 3人
 3. 利用したい 7人 4. その他 1人

8-8 移住促進 (Iターン者、Uターン者の受け入れ)

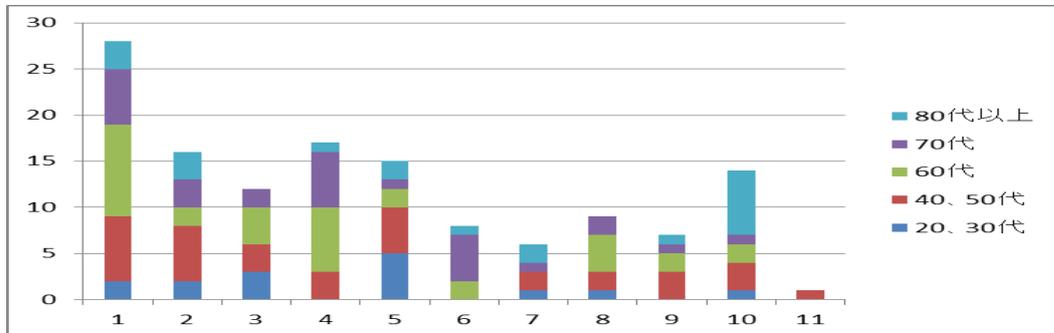


- 1.興味がある 8人 2.少し興味がある 15人 3.どちらともいえない 26人
 4.あまり興味がない 8人 5.興味がない 15人

8-8'

1. 空き家を提供できる 1人 2. 農地を貸すことができる 17人
 3. 移住者と交流したい 12人 4. その他 0人

問9 都会の人が考える農村の役割とは何だと思いますか？（特に思うもの3つまで）



- | | |
|-------------------------------------|-----|
| 1. 食料を生産する場としての役割 | 28人 |
| 2. 多くの生物が生息できる環境の保全をする役割 | 16人 |
| 3. 良好な景観を形成する役割 | 12人 |
| 4. 地域の人が働き、かつ生活する場としての役割 | 17人 |
| 5. 農村での生活や農業体験を通しての野外における教育の場としての役割 | 15人 |
| 6. 水資源を貯え、土砂崩れや洪水などの災害を防止する役割 | 8人 |
| 7. 伝統文化を保存する役割 | 6人 |
| 8. 保健休養などのレクリエーションの場としての役割 | 9人 |
| 9. 特にない | 7人 |
| 10. 分からない | 14人 |
| 11. その他 | 1人 |

実際に都会の人が考える農村の役割の上位3項目は、1. 食料を生産する場としての役割、2. 多くの生物が生息できる環境を保全する役割、4. 地域の人が働き、かつ生活する場としての役割であり、布沢区の方々が予想した結果とほとんど一致していた。

問10 あなたの得意な知識や技術を教えてください。例えば、米作り、野菜作り、炭焼き、パソコン、料理、木工作りなど具体的に記入してください。

パソコン、お菓子作り、山の案内、狩猟、野菜作り、和裁、建築デザイン、木工家具の製作、フルーツやおカリナ、そばうち、山村体験の企画立案、山村と歴史と暮らしに関する知識、炭焼き、建築、木工、料理、シルバーアクセサリー作り、米作り、イベント企画などがあつた。

問 11 10年後の布沢区はどのような姿になっていると思いますか？

- ・さみしくなる。
- ・それほど変わらないと思う、全くわからない。
- ・一人暮らしが増加する。
- ・今より過疎が進んでいる、子供がいなくなる、人口の減少。
- ・高齢化の進行。
- ・空き家が多くなっている。
- ・農地が荒れる、耕作放棄地増加（山や林道なども）。
- ・集落の活力低下。
- ・農業用水路、山道、神社仏閣の維持管理が困難。
- ・区の伝統行事なども無くなり、自分の家だけを守ることが大切になり、昔からの結いの精神が薄れてくる。
- ・布沢でのいろいろな活動は難しくなる、区としての機能が成り立たなくなる。
住みにくくなる、通年の居住が難しくなってくる。

問 12 10年後のあなたの夢を教えてください。布沢区はどのようになっていてほしいですか？あなたはどのようになっていたいのですか？

- ・明るい、活気ある地区。
- ・仕事を多くしてほしい。
- ・若い人が増えてほしい、若者の住める環境整備。
- ・高齢者も元気に暮らせる。
- ・趣味、好きなことを続けていきたい。
- ・快適に暮らしていきたい、この地に住み続けたい、心配なく住める様にしてほしい。
- ・Uターン者増。
- ・自給自足。
- ・布沢の道を広くしてほしい、松坂峠の通年通行。
- ・山が崩れたりしないように整備を整えてほしい。
- ・布沢の景観を崩さないでほしい。
- ・空き家、遊休農地の活用を都市住民のIターンで実現。
- ・子供の農山村体験事業によるにぎわいのある集落。
- ・IターンUターンは良いが、年中通して暮らすのは若い人が考えているほど甘くない。

問 13 3月の大震災後、生活に変化はありましたか？

- 生活に変化がある **9**人
- 生活に変化はない **57**人

問 14 3月の大震災に関して、何か心配なことはありますか？具体的な内容があれば記入してください。

- ・原発、放射能、風評被害、余震が心配。
- ・福島の人口減少。
- ・早期の復興。
- ・原子力エネルギーに頼らなくて良い生活スタイルをはやく見つけてほしい
- ・できるだけ自然エネルギーの利用をしてほしい。
- ・これ以上経済成長の追求は人類の幸せにつながるのだろうか？私達ひとりひとり真剣に考えるべき。
- ・避難されている方々の道筋がはっきりすると良い。

問 15 夏の大水害で被害は出ましたか？

- ・水田の陥落、田に土砂が入った。
- ・生家がひどく心配。
- ・建物に被害がでた（屋根）。
- ・道路や橋が破壊された。
- ・少しですんでよかった。
- ・山崩れが心配。
- ・情報が少なかった、災害に対する区としての行動が遅かった。

自由回答

- ・学生が活性化のために活動してくれてうれしい。
- ・若者の移住が必要である。若い人たちに託していきたい。
- ・集落のためには、行政の目配りが必要である。
- ・1，2回くらいこちらに来ただけで学生に何が出来るのか。アンケートは無駄だ。
- ・「良い食生活」を発信する場としての環境が布沢にはあると思う。協力できる体制を整えるべき。

などの意見があった。

5 - 4. アンケート考察

【問 3～問 6 : 布沢区の良さ、不便さについて】

- ・アンケート結果から布沢区に愛着や誇りを感じている区民がどの年代も多く、自然の豊かさや近所付き合いの良さ、人間関係の良さを誇りに思っている区民が多い事が分かった。また、若い人が少ない事や医療機関から遠いなど交通の便に対して住みにくいと感じている区民が多く、道路の不便さを解消する事や特産品を作る事が布沢区の活性化になると考える区民が多かった。布沢区の自然には多くの区民が誇りを感じており、その自然の資源を利用した特産品等を作る事が可能であると感じた。
- ・買い物が不便と答えた区民の中では女性の割合が高く、交通の便が不便と答えた区民の中では70代や80代以上の割合が高かったので、雪んこタクシーなどの利用改善により、車を持っていない区民や、高齢で運転できない区民がより便利に買い物等に行く事ができる体制をつくる必要があると感じた。

【問 8～問 10 : 活性化案について】

- ・布沢区を活性化させるための案として昨年出た案については農業体験活動に興味のある区民が一番多く、それに次いで移住促進や森林療法ツアーに興味のある区民が多かった。
- ・実際に案内指導できると答えた区民や農地を提供できる、参加してみたいと答えた区民もいたので、やろうと思えば実現できる可能性がある事が分かった。
- ・どの案も男性の方が、興味があると答えた割合が高かったが、農業体験活動や農産物直売所の開設については女性の割合が高かった。
- ・布沢区を活性化させるための案を実際に実現させれば、外部から人を呼び込む事ができるだけではなく、区民同士の交流の場や区民の生きがいにする事ができ、色々な面からの活性化につながると感じた。
- ・パソコン、料理、和裁、建築デザイン、木工家具の製作、企画立案、そばうち等の得意な技術を持った区民がいたので、それぞれの得意技術を活かした特産品づくりや活性化案の実現ができる事が分った。

【問 11～問 15 : 将来の布沢区、災害の影響について】

- ・ 10 年後の布沢がどうなっているかという質問については人口が減少して寂しくなるといったマイナスの意見が多かった事に対して、10 年後どうなってほしいかについては若い人が増え、明るく活気のある地域になってほしいといったプラスの意見が多い事が分かった。
- ・ 大震災の影響については、生活に影響がないと答える人がほとんどであった。しかし、余震や放射能の影響、風評被害について心配している人が多かった。
- ・ 夏の大水害については、水田の陥落や土砂の流入、建物への被害があったが、大きな被害は出なかったようである。
- ・ 布沢区自体には震災や放射能の影響はあまり無いが、実際に分校の利用者数の減少など風評被害は出ているので、安全性をアピールしてこのような風評被害を防ぐ必要がある。



アンケート調査をもとにしたクイズ形式での発表会の様子

6. 布沢区戸別調査

6-1. 戸別調査の目的

今回の戸別調査は、

- ①アンケートでは得られない地域の実態をつかむため
- ②調査を通し地域を元気にする！

の二点を主な調査の目的とした。

①に関しては、アンケートだけではつかみきれない地域の現状を学生が地域の方から生の声で聞き、歩き見て、時には地域の資源を味わうことによって実態をつかもう！という考えのもと調査を行った。

②では学生が地域を歩きまわること、「あれ？いつもと違うぞ？」という気づきから始まり、実際にお話しし地域のことを聞くことで住民の地域に対する思いを引き出す。そうすることで、地域のことを考えるきっかけを与えるとともに、学生からの新しい視点での発想・考えを提供する。また、地域の行事等に参加することで交流が深まるということも地域に与える効果の一つであると考えられる。

6-2. 戸別調査の概要

- ・調査日 平成23年（2011年）9月17日（土）
- ・調査件数 33軒
- ・学生による戸別に訪問しての聞き取り調査(基本的に学生は2人1組)
- ・調査項目に関しては※別資料1を参照

調査日以前に区長さんから集落に対しての告知がなされていたことと、私たちからの調査依頼の通信(※別資料2)を事前に配布していたこともあり、訪ねたお宅ではほぼすべての区民が丁寧に対応していただいた。中にはお宅にお邪魔し、漬物から果物の数々、さらにはお土産までいただいた学生もいた。

6-3. 戸別調査の様子

区民からの意見

区長さん：区民の素直な意見や思いが聞けた。直接区内で話さないような内容も学生に話していた区民も多かったと思う。

区民：長年住んでいても聞くことができなかった区民の意見を聞くことができて良かった。

など、何も知らない学生だからこそ集落のことを楽しそうに話して下さりました。こうした学生ならではの活動のために継続した地域への関わりが必要である。



学生の意見



学生 A：地区のいろいろなことを教えて
いただいて、区民の地域愛が伝わってき
ました。

学生 B：たくさんのスイカをいただいて
とても元気が出ました！

学生 C：調査をあたたく迎えてくれ
てありがとうございました

学生としても普段体験できないことを
体験し、集落の現実を目にし、生の声を

聞くことをしてきて、この地域に再び入ることの必要性を感じた。学生から見ても集落の方たちは集落の魅力は分かりつつも、この地域がこのままでは衰退の一途をたどっていくということも半ばあきらめのように受け入れているように感じた。

また、それは集落のどの位置に住んでいるかにもよって意見が違っているということが分かった。ひとりひとりの意見も集落を盛り上げていきたいという意見やこのまま静かに…という意見もあった。

戸別調査に協力していただいたみなさん、ありがとうございました。



6-4. 戸別調査結果

以下戸別調査の結果であるが、33軒の調査票をまとめ、意見や情報を集約したところ大きく分けて集落の手前と奥にて傾向が違ってくるのが分かった。

集落の手前というのは、地理的には只見町や南会津町の中心部に近い位置を示し、細長い集落の入口(分校～大江橋)となっている。対象戸数 17 軒(内、調査件数 7 軒)、その他に確認できた空き家が 7 軒。郵便局と集落の入口には廃校になった小学校を改修し、宿泊施設とした「森林の分校」がある。この分校では宿泊客相手に料理の提供や情報の提供という役割も担っている。さらには、集落外の人たちが宿泊客として利用するため外部と集落の関わりという意味ではとても大きな存在である。以下、この区域を集落の入口または分校周辺と表記する。

集落の奥は、細長い集落を進み分校から遠い位置(大江橋～浮島・夕沢・猫淵清水)である。ブナの原生林が広がり、清水が流れ出るなど自然が豊かな所に位置している。対象戸数 38 軒(内、調査件数 23 軒)、その他に空き家が 6 軒。また、集会所として利用される地区の公民館がある。以下、この区域を集落の奥と表記する。

以下表1・2は戸別調査の中で聞き取りを行った、農業流通形態と買物の手段についてまとめたものである。両表とも縦の目盛りは布沢区の中の集落の位置を示した。

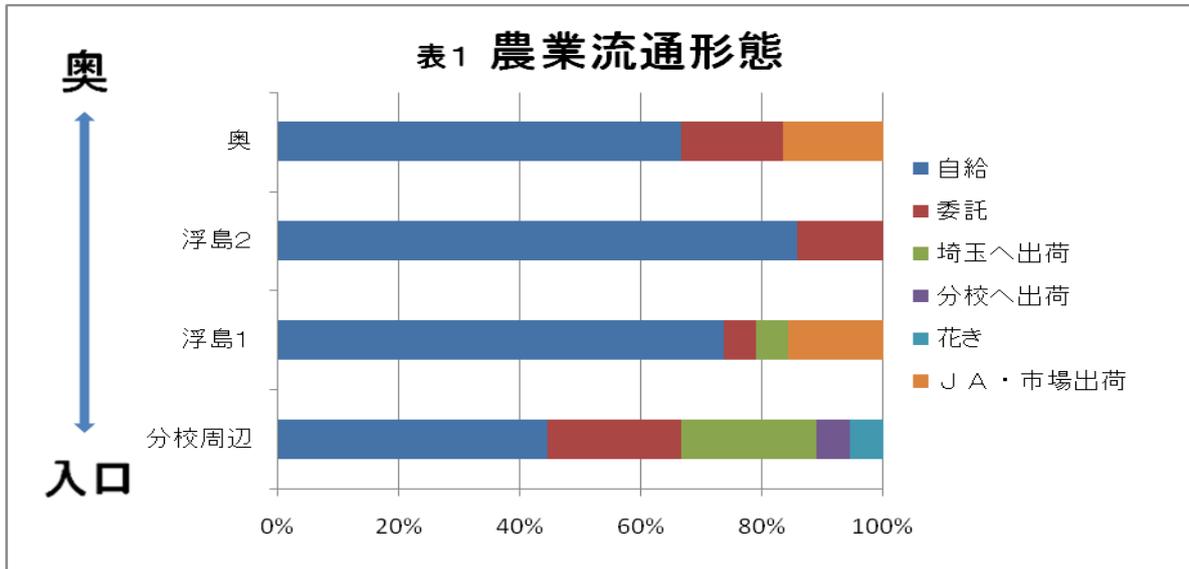


表1を見ると、分校周辺では多くの流通形態を持ち、特徴的な点は分校を利用し野菜を埼玉県越谷市に出荷していることや、分校自体に出荷していることが挙げられる。奥と比べ区の入口の集落の方が農業を利用し地域活性化するには適した条件がそろっているのではないかと考えられる。

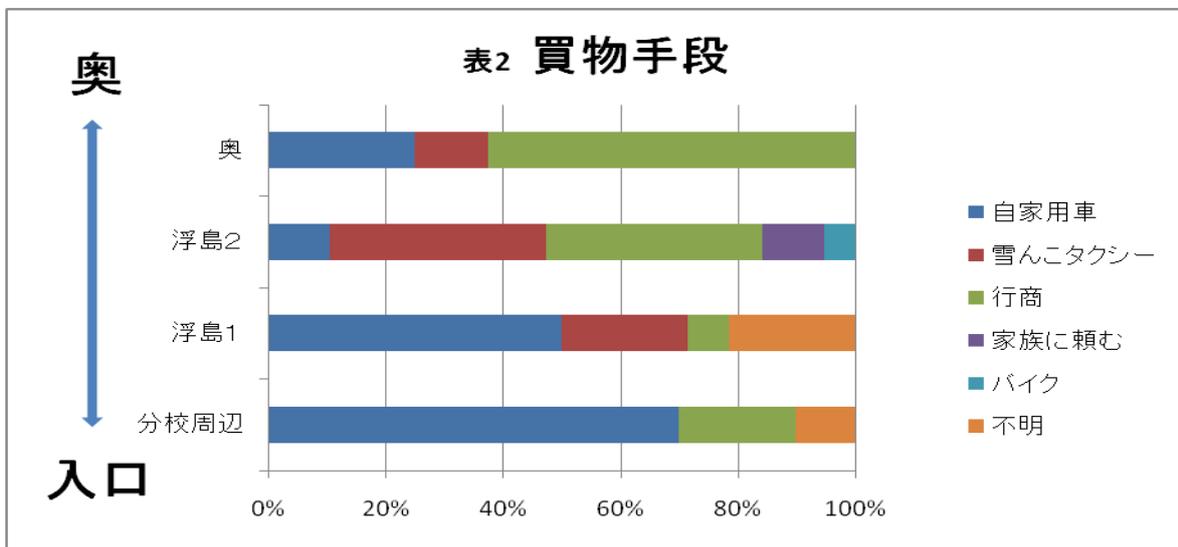


表2から分かることは区の入口の集落ほど自家用車の利用率が高い。また、奥の集落ほど行商の利用率が高いことも特徴的である。***1**雪んこタクシーは車を保有していない家庭での利用が高いため、自家用車の利用率と反比例するようなかたちになった。

***1** 雪んこタクシー…只見町内を走るデマンドタクシー 詳しくは7-3を参照

分校(集落の入口)周辺まとめ

【家族構成の特徴】

夫婦二人暮らしが多く、息子・娘は布沢を出て暮らしていることが多い

【水田や畑の面積、作付け内容】

どこも基本的には自家消費で少量多品目の作物を栽培している

トマト(桃太郎)・金山かぼちゃ・けんじ茄子・キュウリ・大根・スイカ etc...

その他の耕作形態として、花卉・多収量品種栽培(あきたこまち)・[分校への農産物出荷](#)・[分校を利用し越谷市\(埼玉県\)へ野菜出荷](#)などバラエティーに富んだ農業流通形態がある

【暮らしていて不便なこと、どうしてほしいか】

冬は雪の処理(雪かき・雪下ろし)が大変、雪下ろしを頼む家も交通の便が悪い(スクールバスがなくなった)

【買い物はどうしているか】

[車持ちが多い](#)ため布沢区の入口にあり、国道沿いにある小林(車で 20~30 分)や 1 時間以上かけて数日分の食料を買出しに行く

車がない人は近くの人に買ってきてもらう。もしくは雪んこタクシーを利用している
しかし、雪んこタクシーは利用時間や金額の面から利用しづらいとのことであった。
行商もたまに来るが、利用頻度は低い。

【幸せを感じる時はどのような時か】

息子や孫が遊びに来た時(冬は雪の影響で来れない)

イベントに参加出来たとき

[分校などに人が集まったとき](#)

【どんな布沢になったらよいか? なって欲しいか?】

田んぼを若い人が管理してくれると助かる

街灯がもう少し欲しい

【今年の大震災の被害や夏の水害の影響について】

大震災・水害自身の影響はほとんどない

[分校の利用者数が減ってしまい、外の人との関わりが減ってしまった](#)

S 44 年の大水害の時は大変だった

【まとめ】

分校に関わっている人が多く、もっと分校を利用して外の人との関わりを作ることができるのではないかと。

公民館～夕沢地区、大田・猫淵清水(集落の奥)周辺まとめ

【家族構成の特徴】

夫婦や一人暮らしの世帯が最も多かったが、3世代で住んでいる世帯もあり、目立った特徴はなかった。孫や子は布沢から出て暮らしている場合が多かった

【水田や畑の面積、作付け内容】

出荷用に農業をしている農家は1, 2軒で、大部分の農家は自分で食べる分だけを1反程の小さな畑で育てている自給的農家が多い

【暮らしていて不便なこと、どうしてほしいか】

この地区では、車を持っている人が少なく、ほとんどの人が「雪んこタクシー」を利用している。しかし、利用時間が短いので、もっと利用時間を延長してほしい、1回500円の料金をもう少し安くしてほしい ⇒ 交通面の改善について

【買い物はどうしているか】

お年寄りには週に1回来る販売車や1回500円の雪んこタクシーを利用する人が多い。場所は南会津町や小林が多い。子や孫と同居している人は、車の運転のできる人に買い物を頼む人が多い。行商の利用頻度は多い

【幸せを感じる時はどのような時か】

畑仕事、野菜を作っているとき、またその野菜をあげて喜んでもらったときに生きがいを感じる。景色を眺めているとき。家族といるとき。人と接しているとき
単身高齢世帯が多く、近くに集会所もないことからお互いの家を行き来することが多い

【どんな布沢になったらよいか? なって欲しいか】

人・仕事・お店が増えてほしい (若い人に戻ってきてほしい)

【今年の大震災の被害や夏の水害の影響について】

放射能・原発の心配がある

老人クラブ等を震災後なので自粛中

田んぼが抜けた (土手が崩れた)

花畑が水につかった→只見の花畑を見て回る行事が中止になった

【まとめ】

集落の奥に位置し、外の人との関わりも少ない。また、交通の面で多くの課題が見つかるため、まず雪んこタクシーの改善・スクールバスの再利用などに取組む必要がある。

以上、特徴的な点をまとめると、

	森林の分校周辺 (区の入口)	公民館周辺～猫淵清水 周辺(区の奥)
家族形態	夫婦二人暮らし	高齢単身世帯、3世代の 世帯
農業形態	少量多品種 バラエティーに富む	小規模自給的田畑農家
買い物	車持ちが多い (小林や只見に出る)	車持ちが少ない (雪んこタクシーを利用)
震災の被害	森林の分校の利用者 数減	あまり見受けられず 水害の被害あり

【家族形態】

家族形態は区の入口近くの家は夫婦2人暮らしが多く、区の奥にあたる家では高齢単身世帯、もしくは3世代が残って暮らしているという回答が特徴的であった。なぜ、そういった特徴が残ったかについては不明であるが、予想するに、

- ①若い世代が外に出ていること
- ②自然的減少による単身者の増加

といったことが考えられる。これは、区の奥が区の入口よりも条件が悪く暮らしに不便であるため、高齢者を残して外に出ていきにくいことから3世代が残る、もしくは高齢化率が高いため、高齢単身者が多くなっている(片方が死去)のではないか。つまりは、現在の高齢世代が亡くなると必然的に廃屋が増えてしまうことがうかがえる。

【農業形態】

農業形態は、区の奥では個人消費分のお米や野菜を作っている家がほとんどである。浮島周辺では布沢区の中でも優良な水田が広がっているため、農協等にお米を出荷している家がみられる。



浮島周辺の農地

一方、区の入口では基本的には自給分を生産することに変わりないが、そこに更に余ったぶんの野菜の販路として、分校を利用し埼玉県の越谷市へ野菜を出荷するという方法が加わる。これは、埼玉県越谷市出身の布沢区に定住するIターン者Mさんの協力により、分校を野菜の集荷場として利用し越谷市に設置してある無人直売所にて野菜を販売する試み

であり、現在売れ行きは好調であるとのことだ。また、分校で宿泊客へ提供する料理分の野菜を作っている家もある。

どちらの例も分校から遠くなるほど実数は少なくなる。つまりは、分校の存在が農業形態を豊かにし、更には間接的には自分が生産した野菜を通して外部の人と関わっているということが言える。



野菜の仕分けをする M さん

【買い物】

両地区とも交通の便は悪いと回答があったものの、買い物にかぎって言うと、地区によって違いが見られる。これは家族形態によるものも多いと推測できる。

区の入口では車持ちの家庭が多いという特徴がある。家族形態として夫婦で暮らしている家庭は夫婦どちらかが車を保有している確率が高いことが伺えた。また、区の入口では平均年齢が比較的区の奥よりも若く、車を運

転できる世代が残っていると考えられる。こういったことから、行商や雪んこタクシーの利用率は低く、車にて小林や只見のショッピングセンターほか、南会津町や新潟県にまで足を延ばすなど多様な買い物スタイルが見受けられる。

一方、区の奥では高齢単身世帯が多く、車を運転するのに厳しい状況にある。そのため、行商や雪んこタクシーの利用、また、近所の車を運転できる人にまとめ買いを頼むなどの状況にある。しかしながら、雪んこタクシーの改善やスクールバスの再開などの声もこの地区から声を大にしての要望が上がっている。

以上のことにより、区の奥では生活の基礎的な問題の解決、区の入口では生活を向上させる取り組みを優先させて行う必要があると考える。



M さんによる野菜の箱詰め

6-5. 戸別調査考察

区の入口でも奥でも自給分の野菜やお米を作るのは、年金や稼ぎの他に自分達で食べるものを作ることで食材費を浮かすということ以外にも意味が有りそうである。例えば、各地域で聞かれる話に「作った野菜を息子に送ってやる」といった話し、特技として「野菜作り」と挙げることや、布沢区の誇りに思うところでは「田んぼ・畑と川・山との自然が共存」や、最近変わったことでは「ホテルが戻ってきた」など自然面での意見が圧倒的に多かったことから、田んぼや畑での作業に生きがいを感じ、その結果、景観保全と自然と生物形態が豊かになり、できた野菜などは自分で食べるとともに子ども・孫に贈ることに喜びを感じている。決して、先祖代々の土地だから仕方なく…だけではない自給的生産が続けられる理由はここにあるのではないか。

さらに区の入口では分校によって外部への食料の提供という役割を担うとともに、外部とふれあう機会の『種』が手に入れられることとなった。しかしながら、外部とのふれあう『種』を持っていてもそれを育む環境には至っていない。そういった仕組みがなされていないと言い換えることもできる。地域活性化に地域の外部との交流が必須であることは言うまでもないが、外部とふれあえる可能性として、分校を利用した野菜の出荷から交流へと『芽』をださせ、育てていくことが必要ではないか。

現在、消費者が求めているものとして農村の多面的機能が挙げられているとともに、食の安全に関心が大きくなっている。食の安全といった点では、農産物のパッケージに情報を記載することなども挙げられるが、実際にその土地を訪れたり、生産者との会話を直接することが究極の安全性のPRではないかと考える。このように、外部の人がこの地区の区民と接したいという意識は潜在的に存在する。

よって、区の入口ではただ出荷をするだけでなく、外部との関わりの機会が増えることによって、生きがいを創出することにつながり、地域が活性化するのではないか。その場として、基本的な役割を果たしている分校の有効的利用が求められる。

田畑を耕すコト

- ・食料生産
- ・景観創造(保持)
- ・生物形態の多様性
- ・いきがい
- ・外部との関わりの一つの手段

自給的生産 + 出荷的生産
= 生活に必要なもの + 外部とのふれあい



生活を豊かにする機能と生きがいの創出

一方、区の奥では地域を活性化する前段階として、地区の生活基盤を支えることが先決である。そのために、交通の便の改善は必須であり、これが解消されることで分校や布沢の外などに気軽にアクセスできるようにしなくてはならない。



埼玉県越谷市への出荷
宅配業者が集荷に来る

外部との交流の段階イメージ



外部との交流を段階的に表すため上のような図をイメージした。

まず、交流の前段階<土づくり>として、基本的な受け入れの土台を整備する。布沢では、雪んこタクシーやスクールバスの利用方法改善や松坂峠の冬季開通などが挙げられるだろう。

土台があれば地域の資源を活用でき、交流の可能性があるものをピックアップ、検討実行に移していく。交流の可能性が見いだせた資源『種』として、今回の調査では5章アンケートで述べているものや、分校を利用した野菜の出荷などが挙げられる。

実際に布沢にある交流の例として、分校や恵みの森の利用による外部と地域の交流があるが、これは地域の一部の人のみが交流している『芽』におさまる。この交流を地域全体に広げられるシステムづくりも求められる。

次なる段階として、地域もしくは外部のどちらかの主体から働きかけがあり、実際に訪れる、見る、聞く、話す、歩く、食べるなどの交流『花』が生まれる。実際に布沢区では分校を利用したコンサート等で外部の人を受け入れ、地域と外部が触れ合うきっかけの一つを作りだしている。

また、それらの段階を促進する手段として、堆肥と肥料があげられる。前者は設置することで緩やかにかつ長期間生育を促進するハード面である。交流の拠点を作りだすことは、交流の場と雇用現場がそこに産まれる。布沢では、分校や区の集会場、または廃屋などを活用することができるだろう。そこに、専門のスタッフを配置する。そうすることで区内に新しい雇用の現場と外部との接点が増えることになる。後者の肥料として集落支援員等も大きな効果をあげるであろう。まず、外部からの集落支援員は区に入るといっただけで今まで区になかった変化を与える。更に、外部からの情報・視点・技術は活性化を加速させる。しかしながら、余計な堆肥や肥料は植物体の生育不順を招くように、これらは入れすぎでは逆の効果を発してしまうことに注意しなければならない。その時々に見合った投入がなければ効果を最大限発揮させることは難しい。

そうした結果、更なる段階として、活動が文字通り『実』を結ぶことで、双方に影響を与えあい、地域が活性化する。最終的に、実はそれだけでは終わらない。『実』には植え育てた一粒の『種』以上に、次なる新しい『種』がたまっている。その新しい種をつぎつぎに播くことで地域活性化の花が咲き乱れ、無数の実を結ぶのではないか。



BBQ をしながらの地域の方々からの聞き取り調査

7.布沢での中間発表会

9月に行った調査の布沢区民向けの中間発表会を行った。今回の発表会を行うのには2つの目的があった。

- ① アンケート調査や戸別調査の結果を住民に伝えることにより、住民に布沢の現状を知ってもらい問題意識を持ってもらう
- ② 学生と住民とが交流し、相互の理解を深める

このために私たちは、クイズや出し物（手品）などを交え、住民の方にも気軽に楽しく参加してもらえるような工夫をした発表会づくりをした。なお、クイズの景品は「宇大グッズ」（宇都宮大学のロゴの入った湯飲みやタオル）とした。プログラムは以下である。

11月12日布沢中間報告会プログラム

- 10時～11時
1. 守友先生のあいさつ
 2. 湯田区長あいさつ
 3. ゼミ長あいさつ
 4. 3年生、4年生、院生の自己紹介
 5. 4年生の発表(1回目、2回目の調査時の様子や中身の紹介)

～休憩10分（体操なども含む）～

- 11時～12時 アンケート班の発表（発表後に質問コーナー）

～ お昼休み、地元の方との交流、学生による出し物～

- 13時～14時前 戸別調査票班の発表

～休憩・ワークショップの準備 約10分～

- 14時～15時 ワークショップ（KJ法）
15時以降 ワークショップの発表と閉会

解散



今日1日よろしくお祈いします(^0^) 守友ゼミ一同

7-1 中間発表会の様子

以下のパワーポイントを使い、中間発表を行った。パワーポイントを作成するに当たり、報告を地域の方々も参加しながら考えてもらおうという趣旨で、クイズ形式で行うこととしたために次の2点を工夫した。



ポイント1：布沢で撮った写真をたくさん使うこと。



ポイント2：クイズにウケを狙った回答を混ぜることで楽しんでもらうこと。



宇都宮大学農業経済学科守友ゼミ

調査の概要

- ・調査日 9月17日(土)
- ・調査軒数 33軒
- ・まとめ方
分枝周辺、公民館周辺、夕沢・太田・猫淵清水周辺の3つに分けて特色を抜き出した。

①分枝周辺

- 家族形態
夫婦2人暮らし多い、息子・娘は外へ、地元婚
- 農業形態
自家用の田畑で少量多品種
多品種栽培(あきたこまち)、花卉、埼玉・分校への出荷をする人もおり、などバラエティーに富む



- 買い物
車持ちの人が多く→小林や只見に出る
行商の利用は少ない
- 幸せ
息子・孫が帰ってきたとき
イベントや分校で人が布沢に来たとき
イベントに参加できたとき
- 総評
他地区に比べ分校に関する意見が多かった



②公民館周辺

- 家族形態
夫婦や1人暮らしが多い、3世代の世帯もある
- 農業形態
自給分だけ作る人が多い
- 学校の思い出
冬の登校はかんじき
分校から家が遠い人は分校の近くに下宿
- 結婚
金山からお嫁に来た人が多い



- 買い物
雪んこタクシー
運転のできる人に頼む
- 得意なこと
冬の雪の時期に家の中でできる作業が多い
- 幸せ
畑仕事・野菜作りなどの作業をしているとき、と答える人が多い
- 総評
田んぼが抜けるなど、今年の水害の被害が最も大きな地区である。



③夕沢・太田・猫淵清水周辺

- 家族形態
3世代家族のような大規模世帯と高齢単身世帯が多い。ほとんどが地元婚。
- 農業形態
1.反程の小規模自給的田畑農家が多い。
(1、2軒2町歩ほどの出荷農家もある。)
- 学校の思い出
分校から最も遠く、冬季期間の通学が困難だった。
→分校に泊まったり、下宿したことも



- 買い物
1週間に1度の移動販売車を利用
車持ちの人が少ない→雪んこタクシーを利用
→雪んこタクシーの利用時間や料金に対する不満
 - 幸せ
近所の人とお茶飲み
→単身高齢世帯で同世代が多いから
- 総評
他地区に比べ、単身高齢世帯が多く、車の保有率が低い



共通点

- 農業形態
自給自足のための野菜・米作りが中心
- 買物
車の運転ができないと不便
雪んこタクシーを不便と感じている人が多い
- 誇りに思うこと
自然と人、助け合いの心

今後考えるべきこと

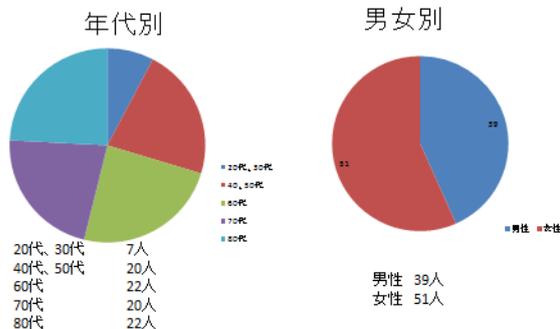
- 布沢区内での情報共有
例)・分校を地域ぐるみで利用
・集落間交流の増加
- 地域資源の外部発信
例)・住民から地域資源の再認識
- 交通便の改善
例)・雪んこタクシーの利用時間、料金の見直し

アンケート調査のまとめ

担当者 **土橋龍**
難波茉佑
駒形英

アンケートに答えて下さった布沢の方たち

布沢区民92名の方にご協力頂きました！！ありがとうございます！！



クイズタイム！！

Q1、布沢に対する愛着や誇り

- 1、自然が豊か
 - 2、人間関係が良い
 - 3、食が豊か
 - 4、きれいなお姉さんがいっぱい
- どれが一番多かったでしょうか？

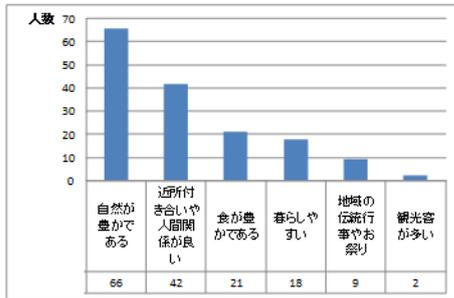


Q1の答え

1.自然が豊か！！



アンケートの結果



Q2、布沢で住みにくいと感じることは？

- 1、医療機関から遠い
- 2、交通の便が悪い
- 3、若い人が少ない
- 4、夜が暗すぎて美女が見えない

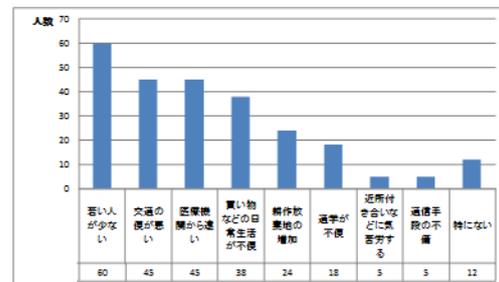


Q2の答え

3.若い人が少ない



住みにくいと感じること



Q3、布沢の活性化とはなんだべ??

- 1、特産品を作る
- 2、道路の不便さを解消する
- 3、地域内のイベントの充実
- 4、守友先生が移住する

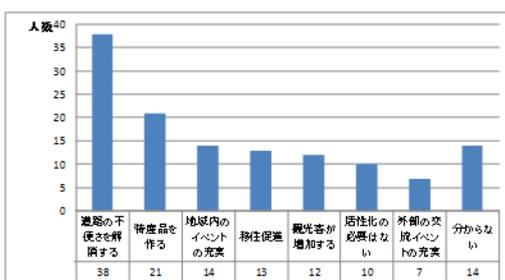


Q3の答え

2.道路の不便さを解消する



布沢の活性化とは？



Q4、布沢区を活性化させるための方法として、住民の方々が最も興味があったものは何でしょう？

- 1.移住促進
- 2.森林療法ツアー
- 3.農業体験活動
- 4.雪娘コンテストを行う

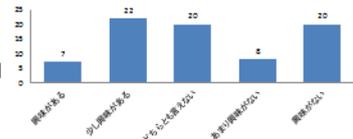


Q4の答え

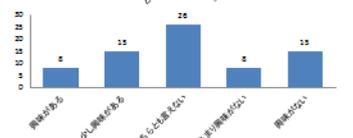
3、農業体験活動



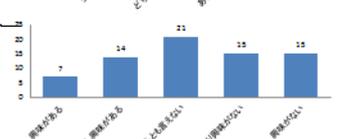
1位 農業体験活動



2位 移住促進



3位 森林療法ツアー



1位 農業体験活動

- 興味がある 29人
指導できる 3人 場所を提供できる 15人
参加したい 11人

2位 移住促進

- 興味がある 23人
空き家を提供できる 1人 農地を貸すことができる 17人
交流がしたい 12人

3位 森林療法ツアー

- 興味がある 21人
案内、指導ができる 3人 参加したい 14人

都会の人が考える農村の役割とは？

布沢の皆さんの予想・・・

- 1位:食料を生産する役割
- 2位:地域の人が働き、生活する場としての役割
- 3位:環境保全や良好な景観育成の役割

実際の都会の人の考えは・・・

- 1位:食料を生産する役割
- 2位:環境保全や良好な景観育成の役割
- 3位:地域の人が働き、生活する場としての役割

予想はほとんど当たっていました♪

10年後の布沢について

- 活気がなくなっている、少子高齢化、空き家の増加などの問題意識を持っていることが感じられた。
- 変化がないと考えている人はほとんどみられなかった。
- 区としての機能を心配する声や、具体的に生活がどうなるかを考えている住民も多い。

どういう地区になってほしいか

- 皆さんが10年後に予想したものとは逆に、若者のいる活気ある地区を希望する意見が多かった。
- 高齢化や過疎化を仕方ないと思いつながら、今の状況から変わりなく生活していきたいという意見もあった。

- 松坂峠の通年通行などの具体的な希望もあった。
- UターンやIターンに対しても歓迎する声は多かったが、暮らしの大変さを考えて年中暮らすことは難しいという意見もあった。

災害に関して

- 3月の東日本大震災に関しては、原発問題（放射能）に対しての関心が大きかった。
- 風評被害に関しても不安視する声が多かった。
- 水害に対しては水田の崩れがみられたが、布沢地区自体の被害は少ないほうだったと考えている方も多かった。
- 情報が少ないことを指摘する意見もあった。

自由回答

- 学生が活性化のために活動してくれてうれしい
- 若者の移住が必要である。若い人たちに託していきたい
- 集落のためには、行政の目配りが必要である
- 1, 2回くらいこちらに來ただけで学生に何が出来るのか。アンケートは無駄だ
- 「良い食生活」を発信する場としての環境が布沢にはあると思う。協力できる体制を整えるべき

まとめ

どの年代の住民の方も、布沢を誇りに思い、布沢を愛していることが分かりました。
しかし、若者が減っていることで地域の元気がなくなっているようです。
若者の多くは交通面に不便さを感じているので交通の便利化が布沢を活性化するための要因の一つとして考えられると思います。
布沢の人たちの多くが自然に誇りを持っているため、自然を活かした活性化が考えられます。
また、人間関係が良いことがアンケートから分かったため、優しさをサービスにするような工夫できると感じました。



発表会は布沢区の公民館で行ったが、約 20 名の方が集まり、住民だけでなく、行政関係者、集落支援員の方の参加もあった。

中間発表会の様子

●区民の感想

- 「大勢の参加者に驚いた。」
- 「学生に若いパワーをいっぱいもらった。」
- 「来年も宇大生に来てほしい」
- 「楽しくて頭の体操になった。」
- 「アンケートの結果がわかりやすかった。」

●学生の感想

- 「来年も継続したい。」
- 「人間関係がよいと思った。」
- 「クイズの正解者が多く、地区の人が地元をよく知っていると思った。」

7-2 KJ法による意見交換

KJ法は、文化人類学者川喜田二郎がデータをまとめるために考案した手法であり、データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて、図解し、論文等にまとめてゆく手法である。共同作業にもよく用いられ、「創造性開発」に効果があるとされている。

(wikipedia より一部抜粋)

発表会の最後に、まとめとしてこのKJ法を使い、参加者たちに意見や感想を出してもらった。学生と参加者が均等になるよう2つのグループに分けてワークショップを行った。

中間報告会の感想

学生
の意見

地域の方
の意見

参加者

来年に向けて

意見について

内容について



ワグナンハス 小林 雅人
駒形 英 島山 恵実
藤沼 航平
小林 サト子 渡部 公章 湯田 次雄
角田 和子 湯田 雅典
菅家 キヨコ 刈屋 孝子
大竹 カツイ

2011年 11月 12日(土)

布沢の状況について

学生
の意見

地域の方
の意見

交通

生活交流

プラスの意見

提案

マイナスの意見

区の改革

7-3 中間報告会の考察

ワークショップでの意見をまとめた結果は以下である。

① 交通について

Ⓜ バスが廃線となってしまったので自動車に乗れない人が、農協、診療所、役場へ行きづらくなってしまった。

Ⓜ 雪んこタクシー（福祉タクシー）の料金設定が高い。距離に関わらず1回500円。また、運行時間が短く、土日祝日は運行していない。

Ⓜ 道路をもっと使いやすくして欲しい、松坂峠を冬にも通れるようにして欲しい。

Ⓜ スクールバスを使いたい人が多い。

雪んこタクシーの利用について、スクールバスの利用ができなくなってしまったこと、道路についての意見がほとんどであり、それらが布沢区の交通の障害になっていると考えられる。

● 雪んこタクシーについて

平成19年4月に民間事業者による路線バスが不採算性を理由に撤退してしまったため、自家用車などの交通手段のない高齢者などの利用を目的とした只見町内を結ぶ公共交通として導入されたデマンドタクシーのことである。民間2社所有のタクシーを商工会が事業主体となり1時間ごとに借り上げて運行するという形態をとっており、只見町は商工会に補助金を交付しているものの、運行を管理しているのは只見町まちタクシー運行委員会である。民間のタクシー会社は通常営業と並行して雪んこタクシーを運行しているので採算性や人員に限りがあることから、タクシーの料金設定を下げたり、運行頻度を増やすことが困難なことがうかがえる。



② 生活について

Ⓜ 10年後も変わりなく生活してゆきたい。

Ⓜ 今回のような集まりに若者にももっと参加してほしい。

Ⓜ 今後も学生との交流を継続できるようにしてほしい。

Ⓜ 地域内での情報の共有ができていないのでは。

Ⓜ 子供たちにもっと自然遊びをして欲しい。

Ⓜ 住民の方々の趣味や特技を活かした地域活性化ができそう（農業体験など）

地区の高齢化や過疎化を心配する意見もあったが、今の暮らしに満足しており、これからもそれが維持されていくことを望んでいる住民が多いと感じた。

③ その他

- ・分校でイベントを開催することにより布沢の活性化が図れるのでは？
- ・伝統の味、料理を次の世代に伝えてゆくべきではないか。
- ・高齢者の力を利用した地域活性化ができるのではないかと？

上記の結果から…



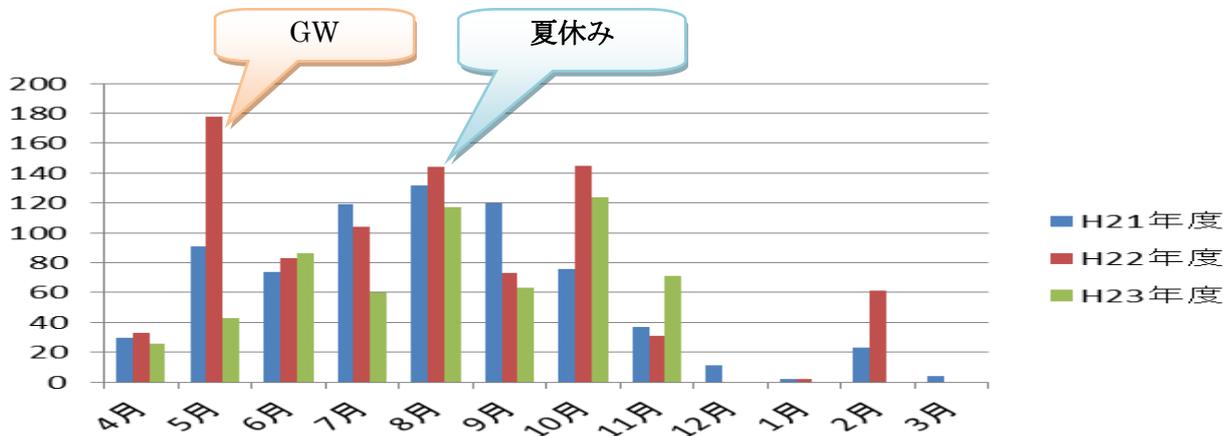
- ① 交通の不便性を解消する方法を探ること
- ② 森林の分校の活用方法を考える（食のイベント開催など）
- ③ 布沢に住む若者が地区の集まりに積極的に参加できるような取り組みが必要

住民の直接の意見からはこのような取り組みが必要とされているのではないかとということが考察できる。そのためには、継続して学生が布沢に入り交流することが必要であり、前提条件になるのではないかと考える。



8. 震災による影響

8-1. 森林の分校の宿泊客数



東日本大震災と原発事故による物理的な直接の被害は特になかった。しかし、森林の分校の利用者数を過去2年間と比較してみるとH21年度からH22年度にかけて増加傾向であったが、H23年度は大きく落ち込んでいる。特にGW(5月のゴールデンウィーク)の落ち込みがひどく、7~10月も前年度と比べて大きく落ち込んでいる。原発事故による風評被害の影響かと推測できる。

8-2. 震災についての考察



左の写真は「只見町災害復興商品券」である。これは只見町の宿泊施設の予約をした先着3000名の人を対象に配られたものであり、只見町の加盟店で利用することができる。森林の分校を利用した私たちには500円分の商品券が配布された。

只見町ではこのような工夫をして人を呼び、風評被害を和らげようとしている。

布沢区では震災による直接的な被害はあまりないが、原発事故による風評被害は出ているようであり、実際に森林の分校の利用者数は23年度では減少している。区民も風評被害や人口の減少等について心配しており、早期の復興を願っている。

このような震災による直接的な被害や風評被害の問題は福島全体の問題であり、県庁で行われた討論会では様々な地区の人々が復興に向けていろいろな工夫をしている事が分った。実際に他の地区の米を作っていた区民の方は風評被害で苦しんでおり、信頼を取り戻すまでがまんをし続けるしかないとおっしゃっていた。

このような風評被害を抑えるためには福島の安全性や良さをみんなでアピールしていく事が必要であり、私たちができる事は大学や地元に戻って、家族や友人に福島の安全性や良いところを話し、広めていく事である。

1人1人がこのようなアピールをしていけばより早く風評被害の影響を抑えることができるだろう。

9-1 道普請

道普請は地域の水路や道路の環境維持活動として、地域住民が協力して地域の清掃をすることである。中山間地域の環境は、人の手を加えなければ、すぐに荒れてしまう。また、地域住民の共有する水路や道路を使い続けていくためにも、この活動が必要になってくる。そして、この活動には、地域住民としての共同活動への参加という意義もある。全員参加ということで、地域住民の間での絆が生まれることに繋がる。もし、何らかの理由で参加出来ないという場合は、2,000円を地区に納めなければならないという決まりもある。

朝の涼しい時間帯から行われていた。日中は晴天に恵まれ日差しが差す中、地域の方々と汗をかきながらお手伝いさせて頂いた。日中の暑さと草刈の作業で、思ったよりも汗をかき重労働であった。

私たち学生の立場では、学生として地域の活動を実体験することにより地域をより知ることができた。



地元の刈屋さんに作業を教えてもらう



休憩中の畠山、笹舟の作り方を教わる



けんめいに働く駒形



カエルのように働く藤沼



かっこつける土橋



側溝さらい(茂木)



女性陣も頑張る(畠山)



楽しそうに作業する戸倉



仕事終了！お疲れさまでした(^^)

9-2. 恵みの森



・概要

恵みの森とは、ブナの原生林が生い茂る布沢区にある森のことである。面積は全体で 920ha にも及ぶ。布沢川から熊の沢、大滝沢、おどしま沢、鎌倉沢周辺から戸板山、鎌倉山に至る一帯を指している。新緑の季節や紅葉の季節などにはたくさんの観光客が散策に訪れる。

・感想

私たちは11月 日に刈屋さんの案内のもと、恵みの森を散策した。私たちが行った時にはもう紅葉が終わりの時期であり、紅葉後の落ち葉が流れる沢に沿って森の中を歩いた。川底が良く見えるほどに水が透き通っている沢では、水中を泳ぐ魚の姿や、迫力がある大きな滝を見ることができ、その横には大きな木が高くそびえ立つブナ林があり、普段見ることができない豊かな自然を見ることができ、とても新鮮で感動した。ブナの木が倒れた場所は広場ようになっており、太陽の光を遮る物が無くなったため、その広場には背の低い植物が生い茂っており、自然の生命力の強さを感じることができた。キツツキが開けた穴の位置でどこまで腐って空洞になっているかが分かる大木や、沢に流れる落ち葉がせき止められ、ヘビのようになっている風景も印象的であった。

↓倒れたブナの木

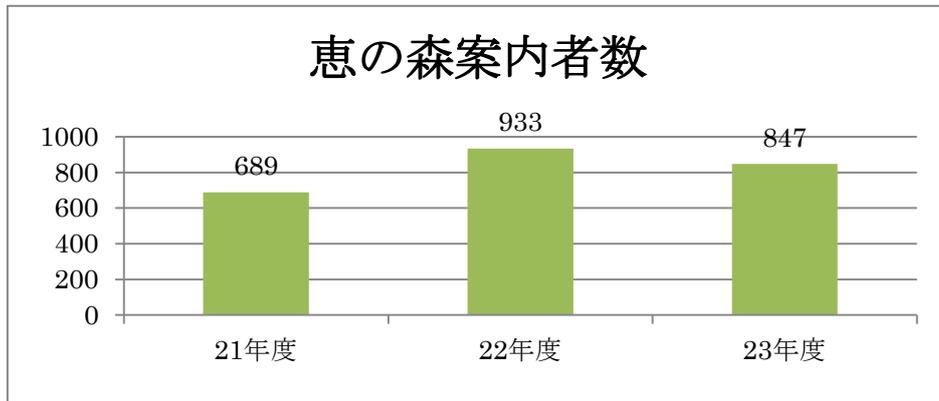


↓ 滝



アンケート調査では、恵みの森を利用した森林療法ツアーに興味があると答えた布沢区民は多く、案内ができる人や、参加してみたいという人もいたので、この恵みの森を活かした活性化は実現できる可能性があり、この森の素晴らしさを他の人にも感じてほしいと思った。

恵の森案内者数



上の図は過去3年間の森林の分校における恵みの森への案内者数である。平成21年度の分校における森への案内者数は689人であり、22年度には933人と増加している。しかし、23年度は847人と少し減っているため原発による風評被害が影響していると考えられる。



← 森に入った人の数をカウントしてくれる機械



↑ 刈屋さんの説明を聞く学生たち



↑ 橋の上で記念撮影

9-3. 森林のふれあいコンサート

11月13日に森林の分校でコンサートが行われた。今回で3回目となるこのイベントであるが、布沢区民はもちろん、只見町内の他地区や町外、県外から訪れる人もあり、分校が大勢の人で賑わった。主催するのは布沢区にIターンで移り住んだIさん夫妻で、布沢区で生まれ育った人よりも地区の外部との繋がりが多いというIターン者の強みを活かし地区の外から人を呼び込んでいる。コンサートの発表者は只見町に関わる老若男女で構成されており、ピアノ、合唱、器楽など様々なジャンルの音楽が聴け、分校で行うからこそその暖かさのある演奏会だった。

私たちが音楽を鑑賞したり歌を唄ったりして参加させていただき、楽しむことができた。このように外部から人を呼び込んで森林の分校でイベントを開催することは、分校の利用価値を高めることにも、地域の活性化にも繋がる取り組みであるので積極的に行っていくことが望ましいだろう。



参加者全員での大地讃頌を合唱

9-4-(1) 佐藤雄平福島県知事表敬訪問

2012年2月3日に福島県庁の応接室で開かれた福島県知事表敬訪問には、3年生5人が参加した。表敬訪問では、私たちが昨年度布沢区で行ったワークショップやKJ法の簡単な紹介から、今年度取り組んできたアンケート調査や戸別調査に関して知事に簡単に説明する形で行われた。説明後、知事との情報のやり取りの中で松坂峠に関する話や福祉タクシー（雪んこタクシー）に関する意見交換を行った。特に、高齢者世帯での交通の便の不便さを知事さんに伝えるとともに福祉タクシーやスクールバスといった自治体が直接・間接的に関わる交通機関の改善点の必要性について報告した。1大学5分程度という短時間の報告ではあったが、知事と各集落の抱える問題点や研究成果についての表敬訪問は他を知る意味でも大きな成果があった。

なおこの知事との意見交換は、知事が4日に開かれる集落活性化県民討論会に出席したいという意向であったが、国の大臣との復興の会議が4日に入ることとなり、そのため知事の強い要望で3日に行われたものである。



知事さんとの意見交換



布沢区長との打ち合わせ



知事表敬参加者による記念撮影

9-4-(2) 集落活性化県民討論会

2012年2月4日に福島市の杉妻会館で行われた集落活性化県民討論会では、前半は各大学による活動報告発表会が行われ、後半は学生と地域住民、そして行政の方とのグループ討論会が行われた。前半の各大学による発表会では、他大学が2年間かけて取り組んできた様々な研究成果を知ることができ、これからの布沢区の活性化に参考にできる点を複数得られたと思う。特に今回の発表会で、複数の大学から廃校の利活用についての取り組みやこれから前向きに考えていこうとする姿勢が感じられた。廃校の有効利活用に関しては、布沢区の「森林の分校」がこれから廃校を利活用しようと考えている他の地区や団体に比べ先行しているのので、他の地域に情報発信していく必要性や、他の廃校を活用している地区や団体との連携作業をこれから進めていくことの必要性を感じた。また、日本大学工学部の発表にあった携帯電話を活用した集落内外との交流方法（原発災害で避難しているお年寄りの方々にその使い方や連絡方法を教える試み）に関しては、集落内での情報交換の有効手段として布沢区でも参考にしていけるべき取り組みの一つであると思った。



調査結果の発表



湯田区長さんによる説明



代表して報告する3人のゼミ生
(藤沼、難波、駒形)



終わった～！
発表うまくいった～！

次ページ以降2ページが集落活性化県民討論会での我がゼミの発表資料である。



只見町布沢区ってこんなところ！

●地理

福島県西部、只見町の東部に位置する中山間地域。

豪雪地帯でもあり、冬季は北にある松坂峠が封鎖される。

●人口

世帯数 57世帯

総人口 150人

高齢化率46.2%の

少子高齢化集落である。



昨年度・・・

布沢の状況を知るための調査

- ・地域点検ワークショップ
- ・聞き取り調査
- ・KJ法

そこで今年度は
こんなことをしま
した！

布沢の資源の発見、提案

- ①アンケート調査
- ②戸別聞き取り調査

アンケート調査の概要

全世帯20歳以上の108人に配布。

うち92人から回答(回収率85%)

男性42% 女性58%

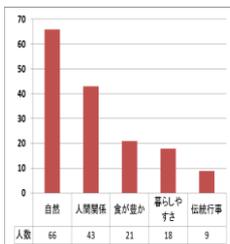
およそ3分の2が60代以上からの回答

アンケートの目的:

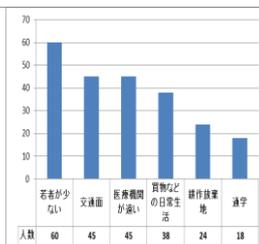
- ・区民の集落ビジョンの共通点・違い
- ・集落活性化に対する区民全体の関心、実現できる資源の発見

アンケート結果

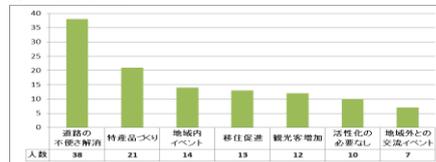
布沢で愛着を感じ、誇りに思う点



布沢で住みにくいと感じる点



布沢の活性化とは？



Q: 具体的な活性化策についてどのようなものに興味があるか

- 1位 農業体験活動 …興味がある住民 29人
指導できる 3人 場所を提供できる 15人
参加したい 11人
- 2位 移住促進 …興味がある住民 23人
空き家を提供できる 1人 農地を貸すことができる 17人
交流がしたい 12人
- 3位 森林療法ツアー …興味がある住民 21人
案内、指導ができる 3人 参加したい 14人

回答から分かったこと

- ・布沢区民は自然豊かな点、人間関係のよさを誇りに感じている。
- ・交通や買い物に関しては不便さを感じており、それを解消することが活性化になると考えている住民が多い。
- ・具体的な活性化策については、自然を活かしたもののへの関心が高く、参加してみたいという人のほかに、場所や知識を提供できるという人が実際に何人もいることがわかった。

集落のこれからについて

- ・住民に10年後の集落がどうなっているかの問いには、「活気がなくなっている、少子高齢化、空き家の増加」などの問題意識をそれぞれ持っていることが感じられた。
- ・逆に希望や夢をたずねたところ、自身で予想したものとは逆に、若者のいる活気ある地区を希望する意見が多かった。

アンケートのまとめ

- アンケートを通じ、どの年代の住民も布沢区に対して愛着を持ち、誇りを感じていることが分かった。
- それぞれの問題意識もあり、それに対して諦めの声もあるが、何とかしたいという気持ちを持つ住民も多い。
- 人間関係のよさ、自然の豊かさを活かしたサービスや活性化は実現可能性があると考えられる。

9

戸別調査概要

調査の目的

- ①アンケートでは得られない地域の実態をつかむため
- ②調査を通じ地域を元気にする！

調査方法

- ・調査日 9月17日(土)
- ・調査軒数 33軒
- ・戸別聞き取り

⇒地区の集落の位置によって違いを比較



道普請のお手伝い!

10

戸別調査の様子

区民から
区長さん、区民の素直な意見や思いが聞けた。直接区内で話さないような内容も学生に話していた区民も多かったと思う。
区民:



学生の感想
学生A: 地区のいろいろなことを教えていただいて、区民の地域愛が伝わってきました。
学生B: たくさんのスイカをいただいてとても元気が出ました!
学生C: 調査をあたたく迎え入れてくれてありがとうございました。

11

地区による違い

	森林の分校周辺 (区の入口)	公民館周辺～猫淵清水 周辺(区の奥)
家族形態	夫婦二人暮らし	高齢単身世帯、3世代の世帯
農業形態	少量多品種 バラエティーに富む	小規模自給的田畑農家
買い物	車持ちが多い (小林や只見に出る)	車持ちが少ない (雪んこタクシーを利用)
震災の被害	森林の分校の利用者 数減	あまり見受けられず 水害の被害あり

戸別調査のまとめ

◎集落の入口と奥での違い

- ・入り口付近では世帯の年齢も比較的低く、森林の分校にも近い分校に関わりやすい。
- ・奥では高齢世帯が多く、車を運転できる人いる世帯が少ない。

◎入口と奥で異なった地域活性化対策が必要

- ・入り口付近では森林の分校を活用した地域活性化
- ・奥では交通の便を重点にした対策



中間発表会(11/12)の様子

区民の感想

- 区民A: 大勢の参加者に驚いた。
- 区民B: 学生に若いパワーをいっぱいもらった。
- 区民C: 来年も学大生に来てほしい。
- 区民D: 楽しくて頭の体操になった。
- 区民E: アンケートの結果がとても分かりやすかった。



学生の感想

- 学生A: 来年も継続したい。
- 学生B: 人間関係が良いと思った。
- 学生C: 女性や高齢者の方が多く驚いた。
- 学生D: クイズの正解者が多く、地区の人が良く地元を知っていると思った。

東日本大震災と 福島第1原発事故による影響

◎森林の分校利用客数の減少



東日本大震災と原発事故による物理的な直接の被害は特になかった。しかし、森林の分校の利用者数を過去2年間と比較してみると前年から大きく落ち込んでいる。原発事故による**風評被害**の影響かと推測できる。

7月下旬の大水害による影響→

水田の畔が崩れている。
布沢地区ではこれ以外に大雨による大きな被害はなかったようだ。



まとめと提言

◎集落の入り口と奥での異なった地域活性化

・森林の分校を中心とした活性化

→農地や農業技術など地域資源の有効活用

・交通の便の解消

→松坂峠の通年通行の実現

雪んこタクシー・スクールバスの利用改善

討論会後半は、約1時間、16グループに分かれそれぞれのグループ内で福島の復興のためにしたいことを話し合った。以下に守友ゼミの学生が参加したグループの主な話し合いの内容について簡潔にまとめる。

Lグループ（参加者・茂木）

喜多方市板の沢集落の方や只見町まちづくり推進員の方が参加していたため放射能の被害が比較的少ない会津地方からどうかして“福島県に人を呼び込もう”という話し合いになった。会津地方には観光地が多くあるため、会津に観光客を多く呼び込み福島の現状を見て知ってもらえればいい。そして身近でいいので、周りの人に旅の話をしてもらい安全安心なことを伝えてもらいたい。という結論に至った。

Nグループ（参加者・駒形）

Nグループは学生3人と大学の教員1人、喜多方市板の沢集落の区民の方1人で構成されていた。その中で一番の注目を集めたのは板の沢集落の区民の方が掲げた「がまん」というキーワードである。その方は板の沢集落でお米を作っており、原発による放射能被害は少ししかないのに風評被害が出ているようである。その上で、信頼を取り戻すためには「がまん」をし続け、信じれば何とかなると区民の方がおっしゃっていた。これを聞いて私は、何も悪くない区民の方々が「がまん」しなければならない現状に改めて不安を感じ、この現状と安全性をより多くの人に伝えていきたいと思った。

Oグループ（参加者・難波）

復興のためにしたいこととして「地域環境の再生」、「除染」、「祭」、「大学生活動の継続」などがあげられた。他地区では学生が卒業した後も関係を継続しているという例、放射能に関しての正しい知識を持っていくべきだという考えが挙げられた。それぞれ立場は違いなながらも、福島という土地に対しての愛は共有していたため、非常に和やかな中でお話してきた。また、それぞれ住む土地も違うため、報道のされ方、受け取り方には違いがあることもわかった。原発の近くにお住まいの方からは、情報を知らないことが怖いということ。良いものも悪いものもしっかり提示することが大切だという意見もいただいた。現場に近いところにいる方の意見は非常に説得力があった。やはり現地に行き、直接住んでいる方に話を聞くことが一番の安心につながるのではないかと思った。

Pグループ（参加者・藤沼）

只見町でどのような調査研究をしてきたのかについての議論が中心になされた。葛尾村に調査に入っている東京農業大学の学生はどのくらいの頻度でどのようにして旅費を捻出しているのかなどについて質問した。互いにどのような調査をしているのかを中心に話し合いが行われた。

Hグループ（参加者・戸倉）

Hグループは、川俣町の小島集落の方や福島大学の学生、そして県南地方に居住している私（戸倉）といった放射線量が比較的高い地区の住民と西会津町や喜多方市のような比較的線量が低い地区の住民で構成されていた。会津地方をはじめとする主に風評被害を受けている地区の住民からは実際に線量の高い地区ではどのような生活を送っているのかなどの質問が出された。一方高線量の地区の住民からは農作物の作付けに関する不安な声やもう少し詳細な線量調査の必要性について話された。これから先も福島に住み続けることが復興のためにし続けたいこととして話がまとまった。

各グループ内での討論が終了後、各グループから集められたそれぞれの福島の復興のためにしたいことが掲示され、それぞれの思いが会場全体で共有された。



～ふくしま大好き～
「I love 福島！！」



それぞれの思いの全体共有



湯田さん一緒に写真撮りましょう！



～緊張した！！～
布沢の湯田さん、小林さんと一緒に



野崎企画調整部長と布沢地区の湯田、小林、刈屋さんと一緒に



参加者全員記念写真

9-5-(1). 只見ふるさとの雪まつり

私たち守友ゼミ生は、布沢区でお世話になった湯田区長をはじめ、布沢区民の方々に再会したいという思いと、アンケートや戸別調査等でよく話題にあがっていた只見・布沢の冬の現状を知りたいという思いから、今回只見のふるさと雪まつりを訪問した。

日時：2012年2月11日～12日

場所：JR 只見駅前広場

只見ふるさとの雪まつりは、今年で第40回目を迎える開催であり、多くの来場者で賑わっていた。毎年行われる伝統的な催しを始め、今年初めて企画するイベントも行われていた。

初めての雪まつりの規模の大きさと迫力に魅了され、終始興奮していた。

入場門「辰」前で撮影→

只見の雪まつりが行われた只見町の中心部である只見地区は、会津田島駅から車で1時間、布沢からは30分程度の場所に位置している。会場に向かう途中も雪まつりに訪れる車が多く、只見の雪まつり歓迎号といった無料歓迎バスの運行も見られた。来場の年齢層は様々で、お年寄りから小さな子どもまで幅広く、子ども連れの夫婦や若者も目立った。

各団体のブース（ゆきんこ市）は活気があって賑わっていた。伝統的な郷土食であるニシンの山椒漬けをはじめ、地元の特産品、雪まつり名物のマトンケバブ・熊汁・鹿汁・うさぎ汁や只見名物の手打ちそばなどが売られていた。また柳津町や金山町といった隣町からもブース出店や、千葉県柏市（友好姉妹都市）からも視察に訪れていて、町ぐるみで交流が盛んに行われていた。

今年の大雪像ノイシュヴァンシュタイン城がテーマで作られ大迫力であった。大雪像のステージでは郷土芸能や仮面ライダーショー、ものまねそっくりショー、只見音研歌謡ショーなど様々な年代が楽しめるようなイベント発表が行われていた。会場内にはブースや大雪像のほかにも、只見高校、只見中学校、朝日小学校の生徒や教員による雪像があり、地域の方々によって雪まつりが後援されていた。



↑大雪像のステージにて

夕暮れからキャンドルステージで、復興祈願キャンドルナイトと題して会場の皆様と願いを込めたキャンドルを灯すイベントが行われた。各々紙コップに願いを書き、キャンドルに火を灯し、好きな場所にキャンドルを置くことができる。“頑張ろう福島”といった復興へのメッセージが多かった。



↑キャンドルステージ



↑キャンドルを灯すゼミ生(島山)

夜には大雪像・会場内がライトアップされ、より一層雪景色を引き立てる。そんな中、「雪中大神輿」、「厄男衆による厄払いの儀・おんべ」が行われる。「雪中大神輿」では、人員不足のためゼミの男性メンバーが急遽飛び入りし神輿に参加した。神輿を担ぐことは、祭りの行事でしか経験できない貴重な体験であった。



↑雪中大神輿の様子

「厄払いの儀」は町内で厄年を迎えられる方を対象に、神聖なる冬空の下で厄払いを行い、厄男衆のみならず、町民の方や会場にお越しになった全ての皆様の家内安全・無病息災を祈願するものである。厄男衆の背中を「ご利益ご利益！」と言いながら叩くと、今年一年良いことがあると言われている。



↑厄男衆によるおんべ

両日を占め飾る、祈願花火大会では様々な思いが込められた花火が打ち上げられ、冬の夜空を彩る。雪景色+花火という冬と夏の風物詩のコラボレーションは、違和感というよりも新鮮さを感じた。

夜空を彩る祈願花火→

只見ふるさとの雪まつりのように豪雪地帯ならではの“雪”という資源を活かしたイベントは、地元の人が集まる機会であり、地元以外の人に只見を知ってもらうことができる機会でもある。また、只見の伝統的文化や郷土食を守る役割も担っていて、継続していくことが地域の伝統を守っていくことに繋がる。

雪まつりを利用した観光客の方々に、森林の分校や恵みの森・ブナの森等の利用をして頂ければ、ロコミなどにより利用して頂いた方以外にも布沢区に外部からの人を呼び込むことができると思う。



↑ 厄男衆の火による餅焼き

私たちは実際に只見の雪まつりを経験してみて、“楽しかった”が素直な感想である。大雪像をはじめ、ゆきんこ市のブース、子供が遊べる雪のすべり台、伝統的な大神輿等の多くのイベントに参加させていただき存分に雪まつりを満喫した。

雪の生活を知らない地域(特に関東地方)の方々にぜひ見ていただきたいと思った。



↑ 雪むすめと写真を撮る男性陣と湯田区長

9-5- (2). 町長との会談

2012年2月11日の只見町雪まつりの際、只見町長の目黒吉久さん、湯田区長と学生でお話をする機会をいただいた。

学生の意見、質問に関してもお答えいただき、有意義な時間を過ごすことができた。

具体的には雪んこタクシーなどの交通の便を解消する取り組みについての改善について町ではどのように取り組んでいるのかをお聞きした。料金を値下げする取り組みも働きかけてはいるがタクシー会社側の負担増も懸念され、なかなか話が進んでいないことがわかった。また、住民によりNPOを立ち上げ、送迎を行うことも可能性として考えていることもお聞きした。

そして、これからの布沢区の活性化につながる意見もいただいた。

農業の重要性、仕事としての農業の在り方を教えていくことの大切さを町長は認識しており、子供たちに対しての教育を変えていく必要があると考えていた。

それらの教育を通して地元で暮らすことの良さを伝えれば、地元に残って仕事をする若者も増えていき、町の機能の維持にもつながると考えられる。

また、只見町は千葉県柏市と交流都市になっており、雪まつりにも何人かいらしていた。復興支援にも40名ほどが町を訪れたという。このような交流都市の機能を活用して、交流人口を増やすべきだと考える。また、限られた人間だけでなく、住民全体が交流都市を認識し、訪れたり迎えたりすることを自然にできるようにしていくことも重要である。

話をしている中で、町長が中山間地域の振興に関して強い意識を持った中でお仕事をされていることに感銘を受けた。また、行政でできることにも限りがあることが改めてわかった。住民でできることは住民自身で取り組んでいくこと、どの面でのサポートが必要なのかを明確にするための意思疎通の重要性にも気づかされた。



9-5- (3). 冬の布沢について

只見町の市街、会津田島駅周辺でも雪の量の多さに驚かされたが、それ以上に布沢地区の雪深さは想像を超えるものだった。運転席からの視界の悪さや、カーブミラーが埋まってしまう、サイドミラーにもすぐに雪がついてしまう点など、運転にも神経がいるであろうと推察できる。

松坂峠の通年通行に関しては住民の要望も多いが、普段の運転でもこのような危険性を伴っていること、除雪の大変さなどもあるため、通年通行実現のためにはそれに対していかに対策できるかということも重要である。

除雪作業での高齢者のけが人も出ていることや、除雪機を使った作業を行っていらっしゃる高齢者も多いことから、これから高齢化に伴って除雪がより一層困難になっていくことが考えられる。

それらの除雪の問題点もあるが、雪は地域資源にもなりうると考えられる。実際に雪まつりは町外、県外からも多くの方が訪れるほど価値のあるイベントである。お祭りの会場となる町の中心部のみでなく、町全体がにぎやかになる取り組みも行う必要があるだろう。

布沢区の周辺にも多くのスキー場がある。

スキー客が分校を利用するケースも多いため、スキー場の利用客増が結果的に布沢区の活性化につながるとも考えられる。



カーブミラーの所まで積もった雪

今年は原発事故の影響もあり若者を中心にスキー客の利用が減少しているため 20~22 歳までの若者を対象に県内スキー場のリフト券を無料にする「雪マジ！ふくしま」というキャンペーンを行うなどしている。宿泊施設とスキー場の連携があれば、地域全体の利益となるのではないだろうか。



大きな雪だるま作り



背丈を超える高さの雪

10.まとめ、提案

今回の調査を通して、これからの布沢区の活性化のために重要な点が明確となった。それらを今後も続けるべき良い点(Keep)、改善していく必要がある点(Problem)、地域活性に向け、これから取り組んでいく提案(Try)の3つの観点から以下のようにまとめた。

○Keep(今後も続けるべき良い点)

- ・分校に外部の人を入れる取り組み
→コンサート(イベントの開催)、雪まつりからの観光客(宿泊)、恵みの森の利用等
- ・資源(自然、人、食、伝統)の保全
→道普請、老人会や婦人会などの集まり、ゆっこぎやマリなどの伝統的なものの継承
- ・今回の事業を継続し、学生を地域に入れること

アンケート結果から区民は区の自然の豊かさと人間関係の良さを誇りに思っていた。これは私たち学生が感じた区の良さとも合致している。これは普段の区民の生活に加え、集落全体の活動である道普請や老人会の集まりも大きいと考えられる。また、既に始まっている地域活性化の事例、そしてさらに新しい活性化の可能性や今まであった資源を包括する上でも、学生の継続的な関わりは必要である。

○Problem(改善が必要な点)

- ・交通の便(松坂峠、雪んこタクシー、バス)
- ・分校の利用客数減少(風評被害をくいとめること)
→分校の効率的利用(森の居酒屋、都市農村交流)(分校や恵みの森)

今回の調査では集落の位置で異なった活性化が必要であることが分かった。区の奥では交通便等の生活の質の改善、入り口では生活の質の向上が必要である。そのために、まず区の奥では交通網を、区の入口では分校の効率的に利用し、外部との交流を深めることが挙げられる。

○Try(地域活性に向けて、これからやってみたいこと)

- ・具体的に出た案をひとつひとつやっていくことで、地域が元気になる。
- ・この地区で出た活性案の実行
- ・学生のサークル化(むらづくりサークル)による布沢区への関わり

具体的な案を一つ一つ実行し、地域を元気にして行く。元気になった地域が集まり県全体は元気になる。元気な県が増え日本全体が元気になる。そうしていくためにも活性化案を実行に移したい。また、学生側も関わりやすくするためにサークル化を検討したい。

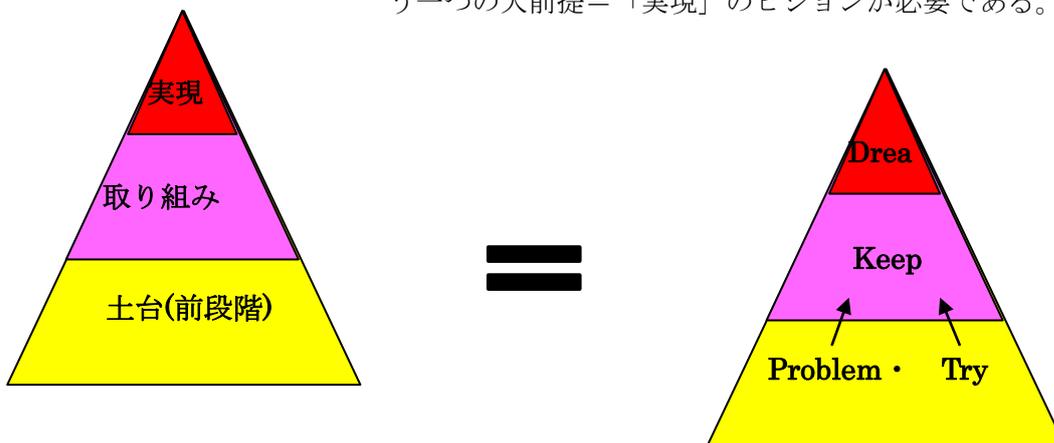
○提案

以上3つの観点から見えた具体的な提案を以下に示す。

- ①**交通の便の改善**について区民・行政・法人での話し合い
- ②分校を拠点に(分校の効率的利用)し、**外部との交流**を促進
資源(自然・人・食・伝統・場所)を利用…森の居酒屋、都市農村交流、空き家の利用
- ③**情報の共有化**(分校の通信)
アンケート結果の効率的利用
- ④**拠点作り**として分校と公民館の利用
区の入国だけでなく、区の奥にも拠点を生み出す。
- ⑤**次世代教育**として地元の子供たちによる地域資源調査・ワークショップ
大学生の取り組みを地区の子どもたちが担い、地区のこどもたちが地域を活性化させる。

前年度(2010年度)までの活動に加え、今年度(2011年度)の活動では地域活性化の土台作りをしてきた。

その土台作りの一段階目として、前年度は地域の資源を再発見した。今年度では土台作りの二段目としてその資源が実際に有効活用できるのかどうかを主に調べてきた。結果、地域活性化に向け、基本的に必要な事や取り組めることとして **Problem** や **Try** といった観点からまとめる事ができた。更には、調査をする段階で、既に実際に活性化に取り組んでいる事例もあった。それが、**Keep** としてある。今後は **Problem** や **Try** を実際の取り組みとしてはじめ、それを **Keep** していくことが地域活性化になる。しかしながら、それにはもう一つの大前提=「実現」のビジョンが必要である。



実現のビジョンとは、言い換えれば「**Dream**=夢」である。何のために取り組みをするのか。何のために土台をつくらしているのか。それは、集落の話し合いから始まり、集落で一つの夢を持つことが大切なのではないだろうか。

補論 ゆっこぎの作り方

布沢区でかつて使われていた農作業着である「ゆっこぎ」の作り方を、梁取フキ子さん、斉藤玉子さん、山内君子さんから教えていただきました。

地域に残る伝統技術の伝承という観点から教えていただきました。きちんと教えていただき、学ぶことも学生の大切な役割です。そして地域の「先生」達が元気になってもらうことが何より大切です。

ゆっこぎ (もんぺ) の歴史と特徴

昭和 20 年代にゴムが入ってくるまでは、今回教えていただいたような紐のゆっこぎだった。しかしゴムを使えるようになると、現在のようなウエスト部分をゴムにしているものに変化した。ウエスト部分を紐で結ぶタイプでは、左右の腰の部分が開いているため、通気性がよく、涼しく作業が出来る反面、蚊が入ってきて刺されてしまう問題もあった。

また、今回作ったものは全体的にゆとりのあるもので、他にふくらはぎの部分がスリムになっているものもある。このタイプは、春の田植えなど長靴を履いて作業する際に長靴の脱ぎ着が楽になるように作られている。作る際にはふくらはぎのサイズを測り、その人にあったものを作るそうだ。



1. 始めに、A (前面) と B (背面) と C (前のまち) を裁断する。

A 横 78 cm (2 尺 5 寸) × 縦 45 cm (9 寸) が 2 枚

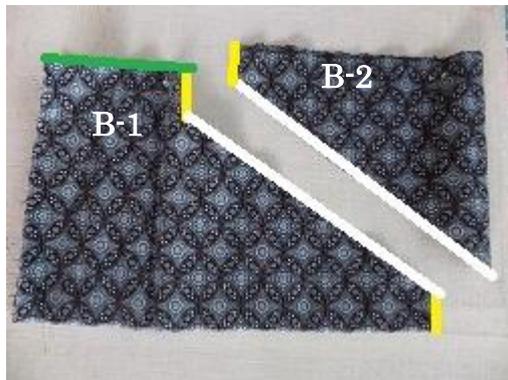
B 横 166 cm (5 尺 3 寸) × 縦 45 cm (9 寸) が 1 枚

※これを 2 つ折りにした状態で使う

C 横 15 cm (5 寸) × 縦 45 cm (9 寸) が 1 枚



2. B を下の写真のように裁断する。



※右側が輪の状態

緑：8寸（27 cm）

黄色：7分



B-2 を開いた状態⇒

3. B-1 と B-2 の短辺（白色）を合わせて縫う。（下の写真を参照）
4. B-1 'も同様に縫う。
5. B-1 と B-1'の緑色の部分を縫い合わせる。
6. 3点が集まったおしりの部分がキレイな△になる様に調節する



7. 前面のマチを作る。C を下図のように裁断する。
8. 二等辺三角形になるように灰色の部分縫う。

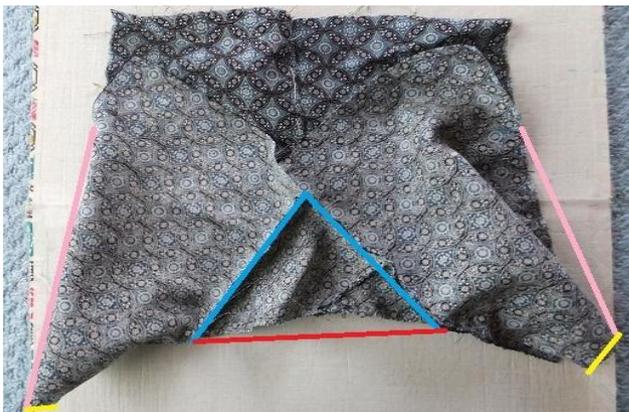


9. マチ (C) の長辺 (赤い部分) の中点と、B - 2 の長辺の中点が合わさる様に縫う。
10. A と B-1 の長辺 (色なし部分) を縫う。A'、B-1' も同様に縫う。(ピンク色の部分)
 ※腰の部分は8分くらい縫わないでおく。

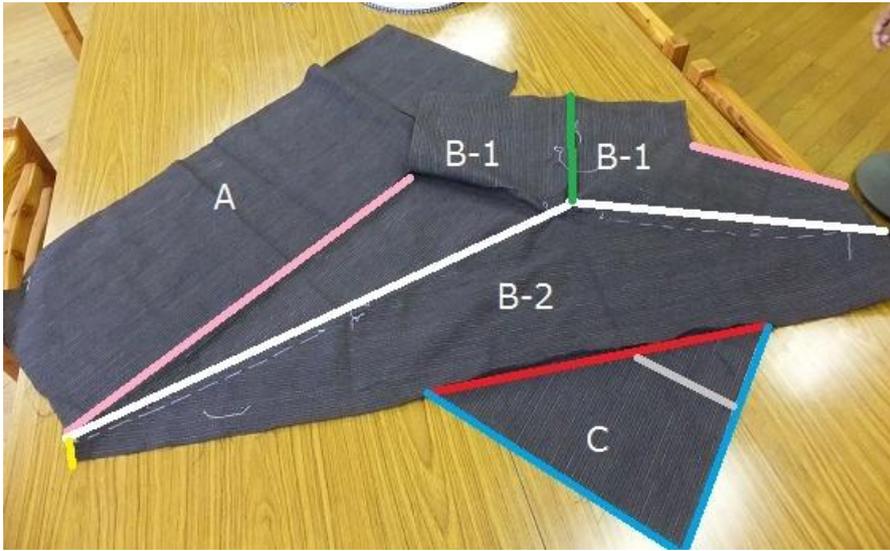


←後面

11. A と、B-2 の残りに部分とマチ (C) の短辺 (青色部分) を縫う。
12. A' も同様に縫う。



←前面



←広げるとこんな

13. 両裾を下図のように三つ折りにして、まつる。



14. 腰の部分にギャザーを入れる。
前面は中心に向かって。



15. 後面は外側に向かって。



16. 紐を縫いつける。

前面の方が紐は長い。後の紐はBの布を10cm幅分切り取って使った(長さ166cm)。
※後の紐は前で結ぶ。前の紐は後に回して前で結ぶため、前の紐が長くなる。



- ◎梁取フキ子さんの会津木綿を使わせていただき
- ◎斉藤玉子さんから裁縫道具をお借りして
- ◎山内君子先生に作り方を教えて頂きました！



この作り方をみただけでは、ひとりで「ゆっこぎ」をつくるのは難しいかもしれません。
実際私たちも、二度教えて頂いて、三度目で自分一人で作れるようになりました！
「ゆっこぎ」を作れるようになりたい方は、ぜひ布沢の優しい先生方に教えてもらいまし
よう♪

(担当：南波美帆、倉科芙美)

布沢区の活性化に関するアンケート調査の実施について

昨年度と今年度、福島県の「大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」を宇都宮大学農学部農業経済学科の守友ゼミが布沢区の皆様と共に考えさせていただいています。

そこで、布沢区（自治会）のご協力をいただき、布沢区の活性化を考える基礎資料とするため、布沢区の地域の皆様の現状やご意見等について調査をさせていただくことになりました。

つきましては、お忙しいことと存じますが、調査にご協力下さるようお願いいたします。

宇都宮大学農学部農業経済学科守友ゼミ一同

1 調査対象：集落全員（20歳以上の方）

2 調査方法：アンケートの回収と一部面接による聞き取り調査

- 学生がご記入いただいたアンケートの回収に伺います。
- 布沢区（自治会）の皆様と学生が、ご協力いただけのご家庭に戸別訪問し、直接聞き取りいたします。

3 聞き取り調査実施時期：9月17日（土）

- 訪問の時間は決めておりません。不在の場合には、お手数ですが、アンケートは郵送か布沢区（自治会）への提出をお願いいたします。
- 聞き取り調査は、ご都合の良いご家庭に調査のご協力をお願いいたします。

4 主な調査内容：布沢区の暮らしの現状、活性化へのご意見など

＜アンケートの例＞

- 暮らしの状況
- 布沢区の活性化についてのご意見、活性化に向けて興味のあること
- 大震災、水害の影響
- その他

＜聞き取り調査の例＞

- 昔の生活
- 得意な技術
- その他

5 その他

- 個人情報取り扱いには十分留意し、外に漏らしたり、他の目的に使用することはありませんので、ご理解のうえ、ご協力下さるようお願いいたします。
- ご不明な点がございましたら、学生か布沢区（自治会）までお問い合わせ下さい。
-

8-3 農村レストラン

- ①興味がある ②少し興味がある ③どちらともいえない
④あまり興味がない ⑤興味がない

8-3' 農村レストランで①, ②とお答えした方にお尋ねします。あなたは何か協力できること、やってみたいことはありますか？(複数回答可)

- ①レストランを運営したい ②スタッフとして料理などを作りたい③場所を提供できる
④材料を提供できる ⑤その他(内容:)

8-4 森林の居酒屋(分校などを利用して住民の憩いの場を作る)

- ①興味がある ②少し興味がある ③どちらともいえない
④あまり興味がない ⑤興味がない

8-4' 森林の居酒屋で①, ②とお答えした方にお尋ねします。あなたは何か協力できること、やってみたいことはありますか？(複数回答可)

- ①居酒屋を運営したい ②スタッフとして料理などを作りたい ③場所を提供できる
④材料を提供できる ⑤利用したい ⑥その他(内容;)

8-5 猫淵清水を使って水ビジネス(豊かな水資源の有効活用、地ビールなど)

- ①興味がある ②少し興味がある ③どちらともいえない
④あまり興味がない ⑤興味がない

8-5' 猫淵清水を使って水ビジネスで①, ②とお答えした方にお尋ねします。あなたは何か協力できること、やってみたいことはありますか？(複数回答可)

- ①運営したい ②販路を開拓できる ③商品を開発できる
④その他(内容:)

8-6 森林療法ツアー(恵みの森散策など)

- ①興味がある ②少し興味がある ③どちらともいえない
④あまり興味がない ⑤興味がない

8-6' 森林療法ツアーで①, ②とお答えした方にお尋ねします。(複数回答可)

- ①案内できる、指導できる ②参加したい
③その他(内容:)

8-7 農産物直売所の開設、販路開拓

- ①興味がある ②少し興味がある ③どちらともいえない
④あまり興味がない ⑤興味がない

8-7' 農産物直売所の開設、販路開拓で①, ②とお答えした方にお尋ねします。あなたは何か協力できること、やってみたいことはありますか？(複数回答可)

- ①農産物を提供できる(提供できるもの:)
②場所を提供できる ③利用したい
④その他(内容:)

8-8 移住促進 (Iターン者、Uターン者の受け入れ)

- ①興味がある ②少し興味がある ③どちらともいえない
④あまり興味がない ⑤興味がない

8-8' 移住促進で①, ②とお答えした方にお尋ねします。あなたは何か協力できること、やってみたいことはありますか? (複数回答可)

- ①空き家を提供できる ②農地を貸すことができる ③移住者と交流したい
④その他 (内容:)

問9 都会の人が考える農村の役割とはなんだと思いますか?

(特に思うもの3つまで○をつけてください。)

- ①食料を生産する場としての役割 ②多くの生物が生息できる環境の保全をする役割
③良好な景観を形成する役割 ④地域の人が働き、かつ生活する場としての役割
⑤農村での生活や農業体験を通しての野外における教育の場としての役割
⑥水資源を貯え、土砂崩れや洪水などの災害を防止する役割 ⑦伝統文化を保存する役割
⑧保険休養などのレクリエーションの場としての役割 ⑨特にない ⑩分からない
⑪その他 (内容:)

問10 あなたの得意な知識や技術を教えてください。例えば、米作り、野菜作り、炭焼き、パソコン、料理、和裁、木工品作りなど具体的に記入してください。

問11 10年後の布沢区はどのような姿になっていると思いますか?

問12 10年後のあなたの夢を教えてください。

布沢区はどのようになっていてほしいですか?あなたはどのようになっていたいですか?

問13 3月の大震災後、生活に変化はありましたか?

- ①ある (内容:)
②変わらない

問 14 3月の大震災に関して、何か心配なことはありますか？具体的な内容があれば記入してください。

問 15 夏の大水害で被害は出ましたか？

①出た（内容： _____)

②特に出なかった

—ご協力ありがとうございました。—

今回ご協力いただいた調査は、結果を大学で集計し、次回の活動の際にご報告させていただきます。日程については後日、お知らせいたします。

また、アンケートを終えた感想、学生へのご意見や活性化についてのアイデア等がございましたら、余白にご記入いただくか、次回活動の際教えてください。

～自由回答欄～

--

布沢区・戸別調査票

お話を聞かせて頂いた方

調査者名

お名前： _____

家族について（他出者についてもお聞かせください）

家族構成	年齢	性別	同居の有無	職業	勤務地	出身地	滞在年数
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				
	歳	男 女	有 無				

・水田や畑があれば、その面積や作付け内容（自家用にはどんなものを植えていますか）、山林があればその面積、利用状況などについて教えてください

・人生のストーリー（あなたが生まれた頃の様子、小さいころの親の仕事、学校の思い出、昔の遊び、学校を出てから従事していた仕事、結婚をしたのは何歳の頃ですか？相手の出身地は？ 趣味、楽しかったこと、つらかったこと、その他なんでも）

- ・今の暮らしの様子は？
何か不便なことはありますか。どうしてほしいですか。
- ・買い物はどうしていますか？（移動手段や回数・・・週何回、どこへなど）
- ・あなたが得意なことは何ですか？（例えば米作り、野菜作り、山菜とり、木工、釣り、炭焼き、パソコン、料理、裁縫など）
- ・幸せを感じる時はどのような時ですか？
- ・現在どんな会、クラブに入会していますか？（只見の or 布沢の？）
- ・布沢区で誇りに思うことは何ですか？どんな布沢になったらよいですか？
- ・昔と今で変わったこと（よいこと、悪いこと）
- ・今年の大震災の被害やその影響はありますか（夏の水害についても）

2011年9月7日

布沢区通信。準備号

布沢の皆さん、こんにちは！



私たちは、宇都宮大学農学部農業経済学科の守友ゼミと申します。私たち守友ゼミでは、昨年9月と10月、そして2月と、福島県の地域活性化事業で布沢区にお邪魔させていただきました。昨年は一部の地区の方と一緒に地域を探索し、布沢の良いところをたくさん発見し、各団体のお話を伺わせていただくことができました。また、恵みの森を見学させていただ

き、充実した経験をさせていただきました。お世話になった皆様、本当にありがとうございました！

今年度の予定！

地元の方々のご厚意や県の方のご協力により、今年度も布沢区にお世話になることになりました。布沢区の方々にはご迷惑をおかけすることになるかもしれませんが、昨年に引き続き、今年度もよろしく願い致します。また、今年度は学生側も新メンバーが多く加わり、10名以上になりました！より多くの皆様にお会いし、布沢について一緒に考えたいと思っています。

今年度は、9月16日～18日と11月11日～13日の2回お世話になります。

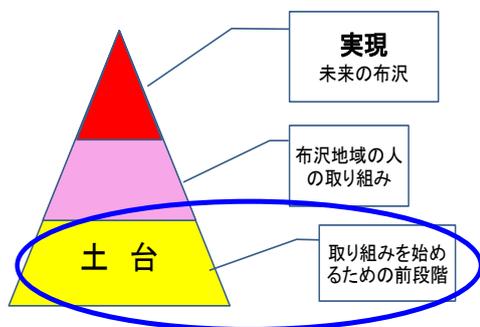
9月16日 見学

17日 聞き取り調査

18日 布沢区の役員の皆様と相談して普請などのお手伝い

9月17日の聞き取り調査では、学生が区の役員さんと共に地区内のご家庭を訪問させていただき、布沢地区への想いをうかがいたいと思っています。昨年度、お会いすることが出来なかった皆様のお話もぜひうかがいたいと思っております。お時間がありましたら、ぜひご協力よろしく願いいたします。

土台づくりとは？



温かい人情、きれいな景色、そして美味しいご飯！魅力に溢れた布沢に行くのがとても楽しみです！新しい仲間も加わり、この仲間たちにも布沢の良さを肌で感じて欲しいと思っています。

岩瀬 涼

学生の意気込み！

昨年のおいしい、きれいから、今年は布沢を深く理解し、多くの人と交流をしたいと思っています！2年目なので、積極的に取り組みたいです。

戸倉 毅

昨年度の活動報告！

昨年度の活動報告をご覧いただいた方もいるかと思いますが、もう一度簡単にご報告させていただきます。昨年度の活動や地元の方との交流を通して、土台の重要性を再確認しました。私たちが考える布沢区の土台とは、①松坂峠の冬季開通、②情報の共有化、③今あるものの維持、④外部の人の受け入れの検討の4つが上がりました。①については行政にお任せし、残りの3つを今年度も継続して検討したいと思います。



宇都宮大学 農学部
農業経済学科
守友ゼミ

最後に、今回の水害についてお見舞い申し上げます。
元気な皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。

布沢区通信 第2号



布沢の皆さん、こんにちは！

私たちは、宇都宮大学農学部農業経済学科の守友ゼミと申します。9月16日から18日までの3日間、アンケート調査や聞き取り調査にご協力いただきありがとうございました。多くの返答と貴重なご意見をいただき、学生自身も布沢区への理解を深めることができました。調査にご協力いただいた布沢のみなさん、本当にありがとうございました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。今回の調査結果は11月に伺う際、中間発表させていただきます。よろしく願いいたします！

前回の活動！！

簡単ではありますが、前回の活動を報告させていただきます。

- 9月16日 見学（龍泉寺、猫淵清水など）、くい打ち体験（分校の庭）
- 17日 聞き取り調査、アンケート回収
- 18日 普請のお手伝い（刈り草集め）

聞き取り調査などを通して、たくさんの方と交流することができました。



聞き取り調査中のつまみ食い



田んぼの調査



普請のお手伝い



「ゆっこぎ」づくり

今回の活動！！

今回 11 月 11 日から 13 日に予定している活動について報告させていただきます。

11 月 11 日 報告会打ち合わせ

12 日 10:00~ 布沢区集会所

前回調査の発表会、レクリエーション

報告についての意見交換会、懇親会

13 日 恵みの森散策、森林のふれあいコンサート観賞

以上の計画で予定しています。12 日の活動に一人でも多くのご参加をお待ちしております！

前回はお世話になりました(^^) 今回には更に布沢の方と仲良くなりたいと思いますので、よろしくをお願いします!! 茂木美江



うまそく



この前はたくさんのスイカをいただいてとても元気が出ました。今回も布沢のお米を食べて頑張ります！ 土橋龍



今回の活動でもお世話になります。よろしくをお願いします！！

布沢区通信☆

第3号!

2012.2.3

☆中間発表会、無事に終了しました!

2011年11月12日、9月に皆さんにご協力いただいたアンケートと、それぞれのお宅に訪問し、お話をお聞きした戸別調査結果の中間報告会を開催しました。

公民館には20名ほどの布沢区住民の皆さんにお集まりいただきました。

学生も始まる前は緊張気味でしたが、みなさんが温かく見守って下さったおかげで、次第にリラックスして話せるようになりました。発表のほかにもクイズ大会や手品の披露なども行われ、和やかなムードで終始発表会は行われました。

最後にはみなさんにも感想を書いていただき、模造紙に貼り付けました。

頂いたたくさんのご意見はとても参考になりました。学校でまとめ直したものを、2月の発表でも使わせていただきたいと思います。

みなさんの「来年も来てね」「楽しかった」という声をいただき、学生も非常に嬉しく、またぜひ布沢を訪れたいという気持ちでいっぱいです。

ご参加くださったみなさん、本当にありがとうございました。

↓分校にてクイズの準備をする学生たち

↓みなさん真剣にお話を聞いています



↑マジックを見ながら一休み♪

↑お喋りを楽しみながら、感想をまとめます



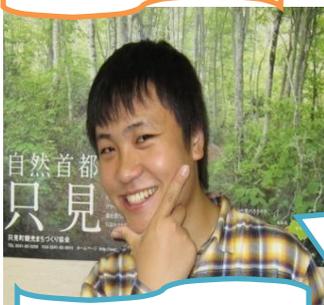
↑みんないい表情！楽しい会になりました！！

☆学生の感想



難波茉佑（3年）

前回来た時も楽しかったのですが、今回でもっともつと布沢が好きになりました！
また来年も来てねという言葉がとてもうれしく、報告会中泣きそうになってこっそりこらえていました（笑）
また遊びに行かせていただくまで、おいしいご飯と皆さんの笑顔、心待ちにしています♪



戸倉毅（3年）

今回の中間発表会は皆さんと一緒に様々なことについて話せて楽しかったです！
特に発表会後の布沢の優しいおばあちゃん達との交流で元気をもらいました。
また、布沢に行きたいと思います。
会える日を楽しみにしています。



茂木美江（3年）

途中で帰った茂木です。
布沢のみなさんと触れ合うことができ嬉しかったし楽しかったです！
もっとお喋りしたかったです(；_；)
また布沢にお邪魔した際は仲良くしてください！



駒形英 (3年)

今回の発表会では、たくさんの布沢の
住民の方々と一緒に、楽しく発表が
できて良かったです！
また布沢に来たいです。
ありがとうございました！



畠山恵実 (3年)

先日は報告会に来ていただきありがとうございました。楽しみながら参加してもらえてとても嬉しかったです。今回は、布沢の自然や文化に触れる機会がたくさんありました。そして分校で食べたおもちとはと〜ってもおいしかったです (*^_^*)
2回布沢を訪れただけじゃまだまだ皆さんとの交流が少ないし、もっと仲良くなりたいです！
これからの季節、寒くなりますが、お体に気をつけてお過ごしください。また会いましょう！！



土橋龍 (3年)

布沢はやっぱり楽しい場所でした！
ポスターに「自然首都 只見」と書いてあって、その通りだと思いました。布沢は大都会です！いや〜自然が賑やか過ぎました。もう布沢の自然は永遠のバブル景気ですね！一生弾けることはないと思います。僕も南会津出身の端くれとして自然バブルの時代をずっと生きていきたいです！南会津をもっと盛り上げていきたいと改めて思いました。ありがとうございました！！



藤沼航平 (3年)

2回目の布沢、楽しかったです！
発表ではゼミ長として司会・進行もみなさまのご協力のおかげでスムーズに進めることができました。次は雪まつりの時に来たいと思っています。その時はよろしくお願います！



布沢はとってもいい所です。自然も良い、食べ物も良い、そして何より人が良いですね！
布沢区の皆さん、ありがとうございました。



皆さんが愛している布沢が自分も大好きです！
今後もよろしくお願いします！



11月は忙しい中ありがとうございました！
食事も自然も人柄も豊かな布沢をまた訪れる事が出来、
幸せな3日間でした。
これから寒さが厳しくなりますので、ポッカポカにして過ごしてください。



布沢の食べ物が豊かで、とても美味しかったです！
ご馳走様でした。

☆おわりに

今回の発表会以外にも、皆さんとの懇親会や恵みの森を散策したり、コンサートで美しい音色をお聴きしたりと、布沢の自然や文化、食にたくさん触れ合える機会をいただきました。2月には福島市で今回の調査についての報告を行います。

今まで学生を快く受け入れて下さり、本当にありがとうございました。最終報告が終わった後も、学生とみなさんのつながりを大事にしていきたいと思っていますので、どうかこれからもよろしくお願いします。



それでは、また逢う日まで・・・・

後記

本調査研究は、福島県企画調整部地域振興課が主催する「大学生の力を活用した集落活性化調査事業」にもとづくものである。これは福島県が平成22年度（2010年度）からスタートさせた「福島県過疎・中山間地域振興戦略 里・山いきいき戦略」の一環として行われたものである。

平成22年度（2010年度）は宇都宮大学農学部の守友裕一ゼミが当事業を受託して、福島県南会津郡只見町布沢区に入り、調査研究を進めた。またこの研究を進めるにあたって宇都宮大学の「地域連携活動事業費」の交付も受けた。2011年3月に『布沢 発展への道』として報告書を取りまとめ、福島県、布沢区、宇都宮大学へ提出した。

地域と大学から事業ならびに経費を受けて、この調査研究と教育活動に取り組んでみようと考えたのは次の理由であった。

過疎・高齢化が進む地域、集落を支援しようという動きは、今各地で起こりつつある。NPO法人地球緑化センターが長きにわたって取り組んできた「緑のふるさと協力隊」をはじめとして、学生有志による「地域づくりインターン」、農水省の「田舎で働き隊」、総務省の「集落支援員」、「地域おこし協力隊」など多岐にわたる。

こうした実践の中で共通項として明らかになってきたのが、地域の方々や学生達の二重のスパイラル的成長が見られるという点である。何も知らない学生達が地域の方々から長年培った経験や技術、生きてきた教訓などをお聞きする中で成長し、また話を聞き取ってもらうことで地域の方々や自分自身の生き方に自信と誇りを取り戻し、そうして地域の方々や前を向いて進んで行こうという気持ちになり、その一歩高まったレベルの地域の方々やの姿勢から、学生達が更に学び成長していくという二重の相互成長の関係である。

こうした地域調査研究と、地域の方々やの自信・成長、学生達の成長とを一体的に構築していこうということが、本調査研究に取り組んだ理由であった。しかし2011年3月11日に東日本大震災が発生し、また福島県は未曾有の原発災害に見舞われることになった。しかし福島県地域振興課はこうした中でも本事業の重要性を認識し、2011年度もこの事業を継続することを決定した。

私たちのゼミナールでも、この福島県地域振興課の決意を受けて、事業を継続することとした。幸い宇都宮大学からも「農学部長支援経費」、「地域連携活動事業費」を受けることができた。こうして本事業は東日本大震災を間にはさんで実施するという歴史的意義を持った事業となった。福島県出身以外の学生達も含めて全力で、只見町布沢区という地域を通して福島県の復興を真剣に考えた。困難な中成長した学生達の姿にエールを送って頂ければ幸いである。

この調査にあたっては湯田次雄布沢区長様をはじめとする布沢区の皆様、福島県庁各部署の皆様方に大変お世話になった。あつくお礼申し上げたい。

2012年3月 宇都宮大学農学部農業経済学科 守友裕一